

資料編

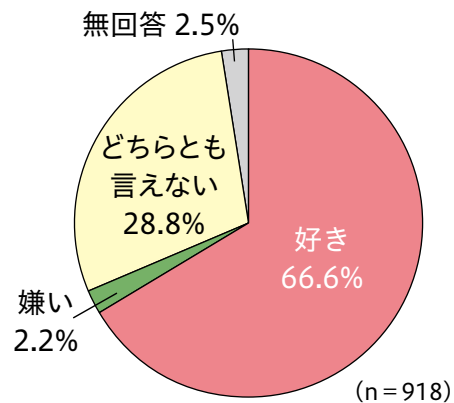
市民アンケート調査結果＜ポイント＞

調査対象	市内にお住まいの平成17(2005)年4月1日以前に生まれた方の中から3,000名を無作為抽出
調査期間	令和5年(2023年)8月4日(金)～8月21日(月)
回収結果	配布数:3,000票、有効回収数:918票(郵送:713票、Web:205票)、有効回収率:30.6%

旭市への愛着

市-2

- 旭市への愛着は、「好き」が66.6%となっており、「嫌い」は2.2%に留まっています。
- 属性別では、20歳代の「好き(77.0%)」が高くなっています。一方、「嫌い」では「30歳代(6.0%)」、「居住年数20年以上30年未満(4.2%)」、「海上地域(3.8%)」などがやや高くなっています。

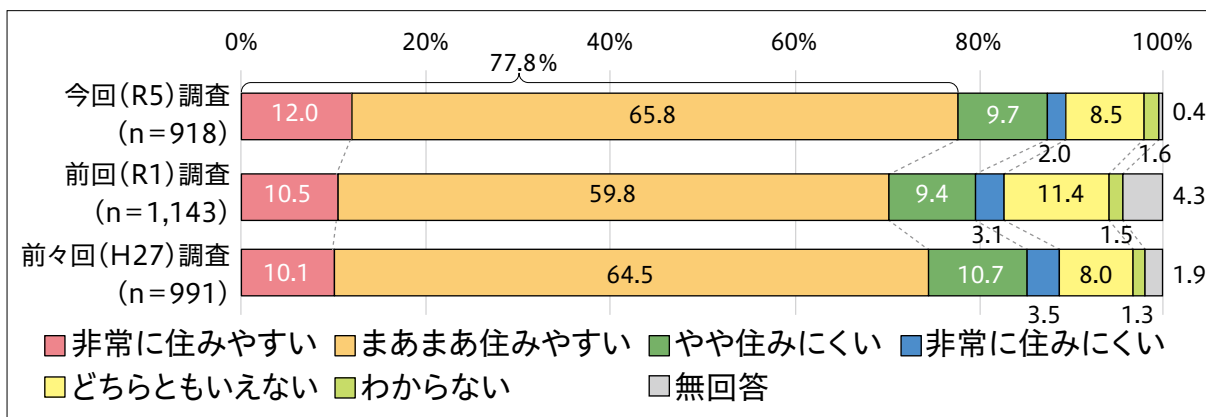


※「n」は設問の有効回答数を示します。

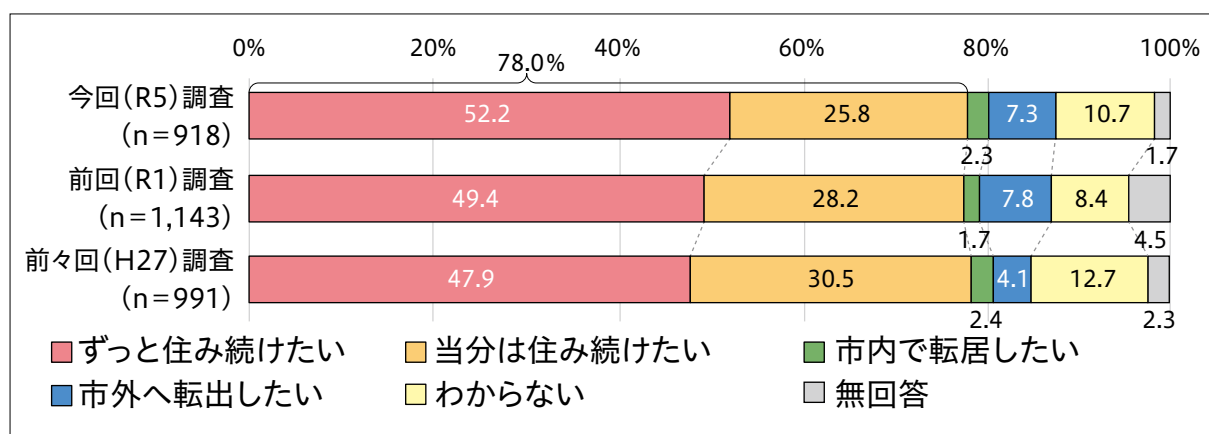
旭市の住みやすさ

市-4

- 旭市の住みやすさは、「非常に住みやすい」が12.0%、「まあまあ住みやすい」が65.8%となっており、全体の77.8%が『住みやすい』と感じています。この『住みやすい』と感じている人の割合は、前回(R1)調査(70.3%)より7.5ポイント上昇しています。
- 一方、『住みにくい』と感じている人は11.7%(「やや住みにくい9.7%」+「非常に住みにくい2.0%」)となっています。
- 前回(R1)調査、前々回(H27)調査と比較すると、「非常に住みやすい」と感じている人の割合は徐々にですが上昇しています(H27:10.1%→R1:10.5%→R5:12.0%)。



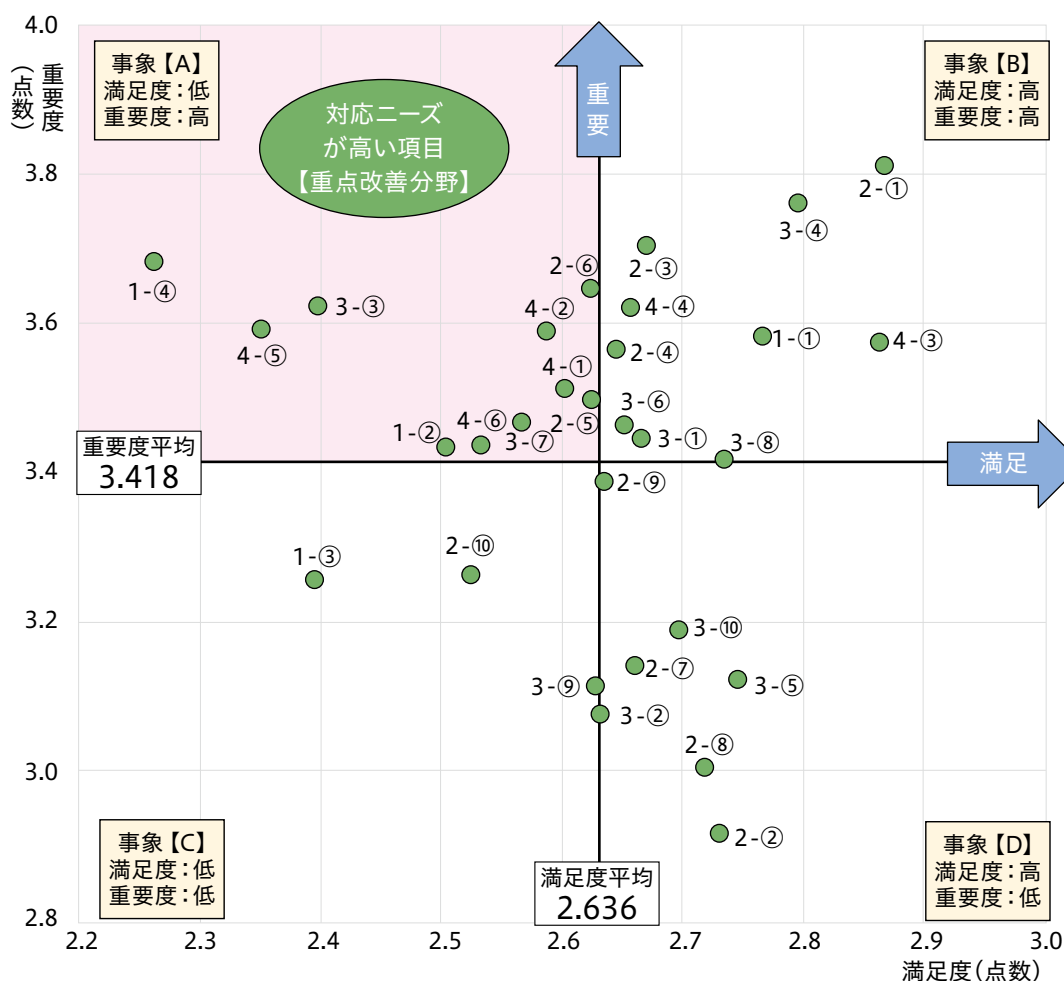
- 定住意向については、「ずっと住み続けたい」が 52.2%と最も高く、「当分は住み続けたい (25.8%)」と合わせて 78.0%が『住み続けたい』と思っています。
- 「ずっと住み続けたい」と思う人の割合は、前々回調査の 47.9%から前回調査が 49.4%、今回調査が 52.2%と、徐々に上昇しています。
- なお、「市外へ転出したい」と思う人の割合は 7.3%となっており、前回調査 (7.8%) とほぼ同じですが、前々回調査 (4.1%) からは若干 (3.2 ポイント) 上昇しています。
- 年代別にみると、「ずっと住み続けたい」では、「80 歳以上 (76.9%)」、「70 歳代 (69.4%)」、「60 歳代 (63.8%)」が 60%を超えて高く、また「当分は住み続けたい」では、「30 歳代 (37.3%)」、「10 歳代 (36.4%)」、「20 歳代 (33.8%)」が 30%を超えて高くなっています。
- 旭市に『住み続けたい』（ずっと住み続けたい+当分は住み続けたい）と回答した方 (n=737) の住み続けたいと思う理由は、「自然環境に恵まれている」が 46.0%と最も高く、次いで「両親や親戚が市内に住んでいる (39.5%)」、「買い物や生活に便利 (31.6%)」などとなっています。
- 一方「市外に転出したい」理由は、「交通の便が悪い、通勤・通学に不便」(59.7%)と「買い物や生活に不便」(53.7%)が目立って高くなっています。



	『住み続けたい』理由		「市外に転出したい」理由	
第1位	自然環境に恵まれている	46.0%	交通の便が悪い、通勤・通学に不便	59.7%
第2位	両親や親戚が市内に住んでいる	39.5%	買い物や生活に不便	53.7%
第3位	買い物や生活に便利	31.6%	子育て・教育の環境がよくない	25.4%
第4位	特に転居したいところがない	25.5%	行政サービスが充実していない	25.4%
第5位	保健・医療・福祉が充実している	24.0%	保健・医療・福祉が充実していない	17.9%

(市政へのニーズ：点数化)

- 満足度と重要度を点数化したうえで、両者の相関関係を整理しました。
- その結果、今後対応をしていく必要のある「満足度が低く、重要度が高い項目（相関図の左上に位置する項目）」は、「1- ④ 雇用の確保」、「4- ⑤ 公共交通網の整備」、「3- ③ 安全で快適な道路の整備」、「2- ⑥ 学校教育の充実」、「4- ② 高齢者福祉の充実」、「1- ② 商工業の振興」、「4- ① 地域包括ケアシステムの充実」、「4- ⑥ 消費者の保護」、「3- ⑦ 廃棄物の減量化と資源の有効活用」、「2- ⑤ 障がい者福祉の充実」となっています。

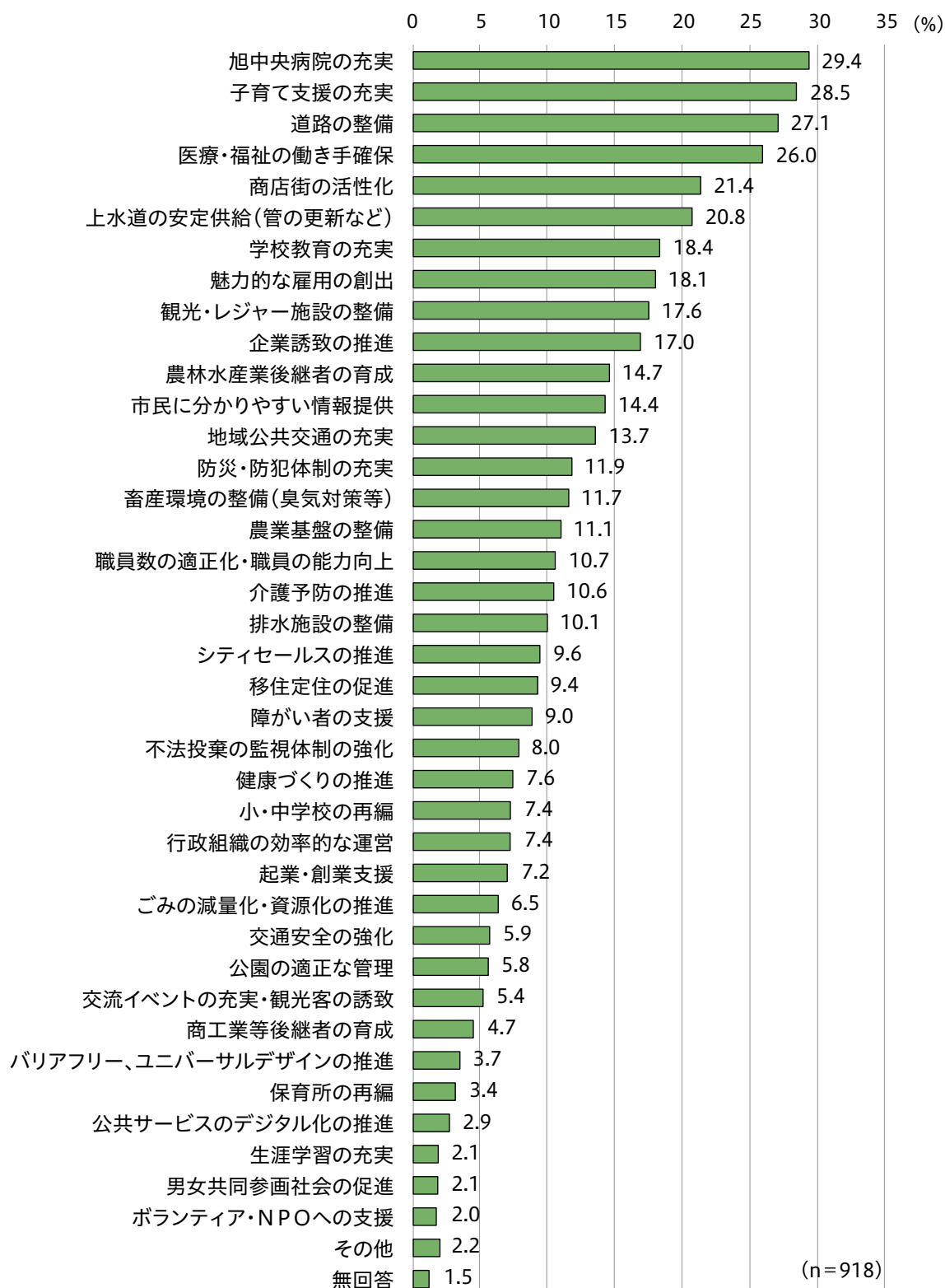


※網掛け部分は事象【A】(満足度：低・重要度：高)に属する項目

1. 魅力ある雇用を創出し、安心して働けるまちづくり	① 農水産業の振興
	② 商工業の振興
	③ 観光の振興
	④ 雇用の確保
2. 結婚・出産・子育ての希望がけない、誰もが生きがいを持てるまちづくり	① 保健・医療の充実
	② スポーツの振興
	③ 子育て支援の充実
	④ 地域福祉の充実
	⑤ 障がい者福祉の充実
	⑥ 学校教育の充実
	⑦ 生涯学習の充実
	⑧ 芸術文化の振興・伝統文化の保存
	⑨ 青少年の健全育成
	⑩ 互いに認め合う社会の形成

3. ひとの定着・還流・移住の流れをつくり、人々が集うまちづくり	① 定住の促進
	② 交流の促進
	③ 安全で快適な道路の整備
	④ 安全・安心な水の供給
	⑤ 公園の充実
	⑥ 居住環境の充実
	⑦ 廃棄物の減量化と資源の有効活用
	⑧ 自然環境の保全
	⑨ 協働の促進
	⑩ 広報・広聴・情報公開の充実
4. 将来にわたって元気な地域をつくり、安全・安心で暮らしやすいまちづくり	① 地域包括ケアシステムの充実
	② 高齢者福祉の充実
	③ 消防・防災力の強化
	④ 防犯対策・交通安全の強化
	⑤ 公共交通網の整備
	⑥ 消費者の保護

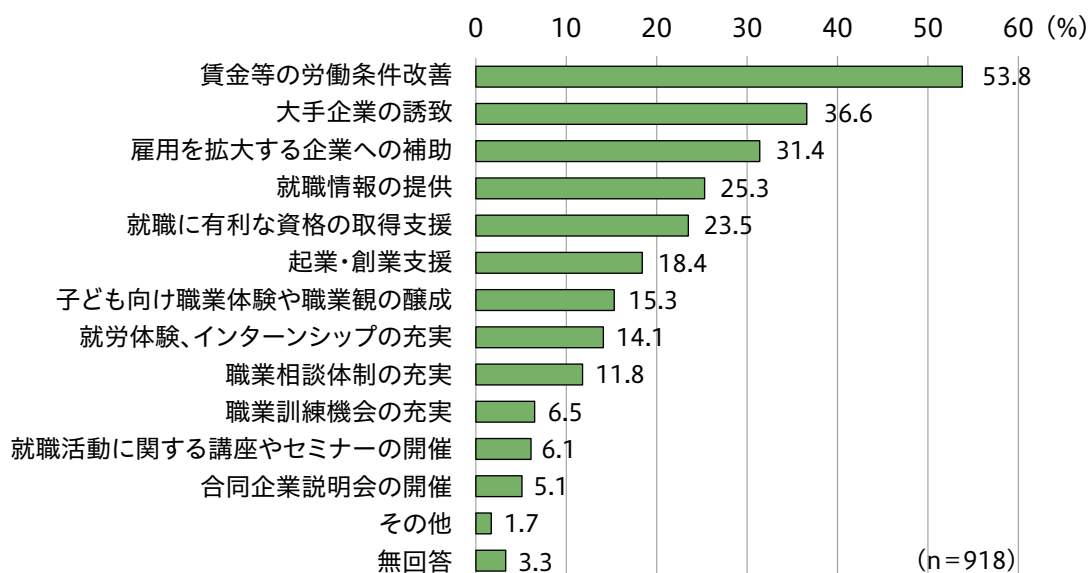
- 市に優先的に実施してほしい取り組みは、「旭中央病院の充実」が 29.4%と最も高くなっています。次いで「子育て支援の充実(28.5%)」、「道路の整備(27.1%)」、「医療・福祉の働き手確保(26.0%)」、「商店街の活性化(21.4%)」の順となっています。
- 年代別にみると、「子育て支援の充実」における「20 歳代(58.1%)」、「30 歳代(53.3%)」などが高くなっています。



雇用促進

市-15

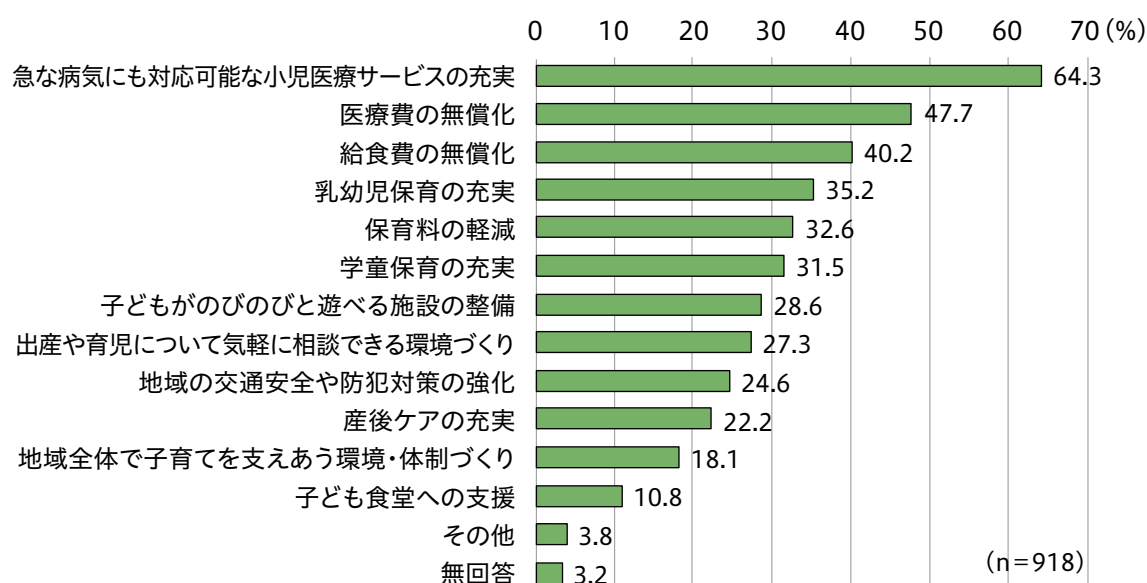
- 雇用促進のために必要だと思うことでは、「賃金等の労働条件改善」が53.8%で最も高く、次いで「大手企業の誘致(36.6%)」、「雇用を拡大する企業への補助(31.4%)」、「就職情報の提供(25.3%)」の順となっています。
- 年代別にみると、「賃金等の労働条件改善」における「20歳代(71.6%)」、「大手企業の誘致」における「40歳代(43.5%)」などで高くなっています。



地域の子育て支援

市-16

- 地域の子育て支援として期待することでは、「急な病気にも対応できるような小児医療サービスの充実」が64.3%で最も高く、次いで「医療費の無償化(47.7%)」、「給食費の無償化(40.2%)」、「乳幼児保育の充実(35.2%)」の順となっています。
- 年代別にみると、「急な病気にも対応できるような小児医療サービスの充実」における「50歳代(76.3%)」、「給食費の無償化」における「40歳代(50.5%)」などで高くなっています。

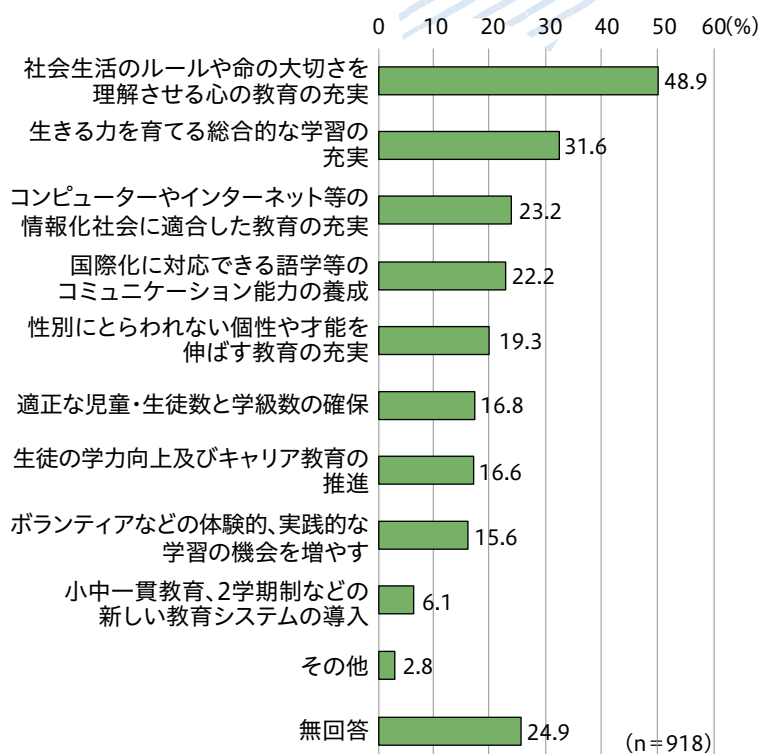


学校教育

市-20

- 学校教育を充実させるために期待することは、「社会生活のルールや命の大切さを理解させる心の教育の充実」が48.9%で最も高く、次いで「生きる力を育てる総合的な学習の充実(31.6%)」、「コンピューターやインターネットなど、情報化社会に適合した教育内容の充実(23.2%)」、「国際化に対応できる語学等のコミュニケーション能力の養成(22.2%)」の順となっています。

- 年代別にみると、「社会生活のルールや命の大切さを理解させる心の教育の充実」における「70歳代(63.3%)」、「60歳代(62.9%)」などが高くなっています。

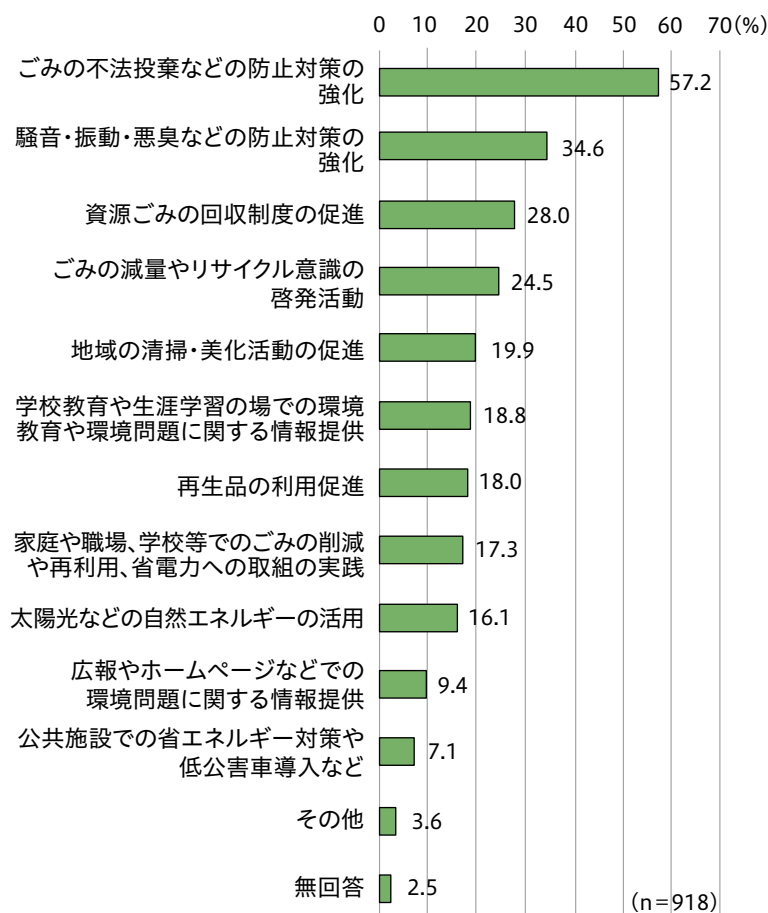


環境を守る

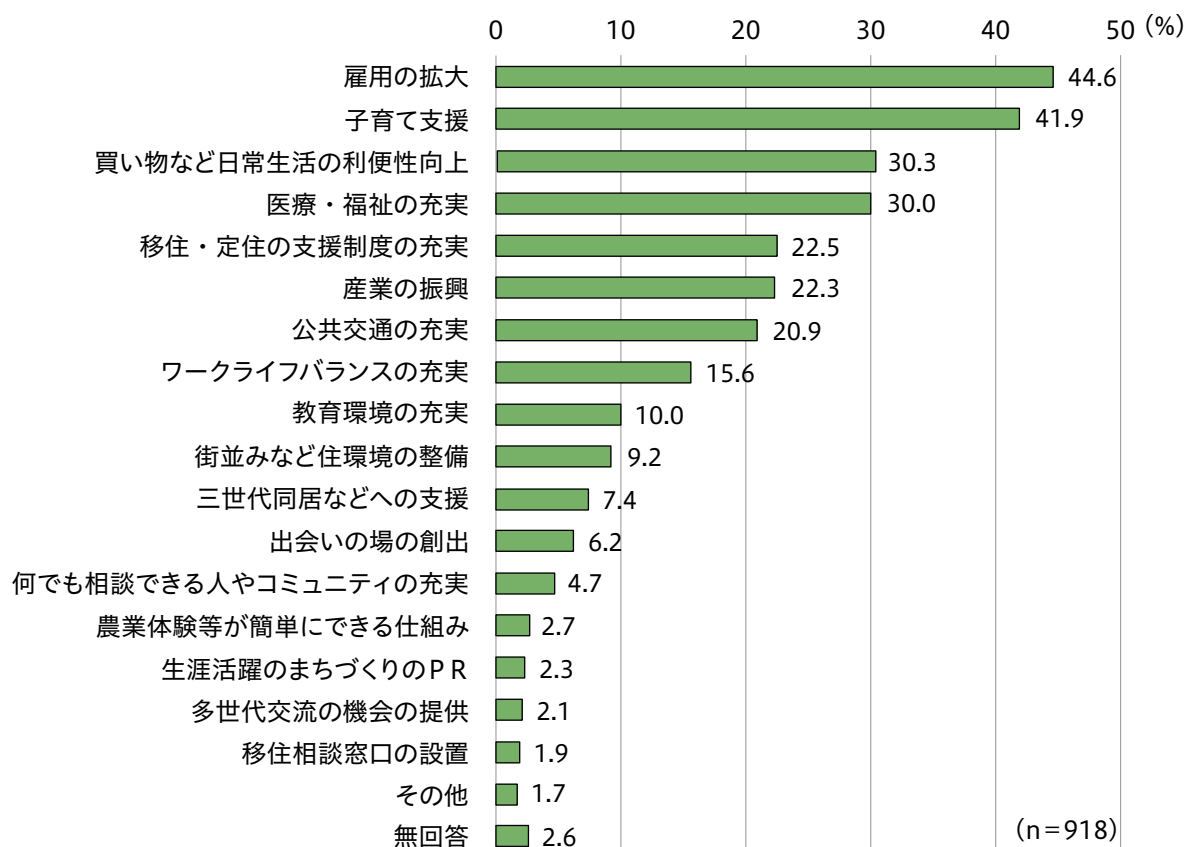
市-21

- 環境を守るために期待することでは、「ごみの不法投棄などの防止対策の強化」が57.2%で最も高く、次いで「騒音・振動・悪臭などの防止対策の強化(34.6%)」、「資源ごみの回収制度の促進(28.0%)」、「ごみの減量やリサイクル意識の啓発活動(24.5%)」の順となっています。

- 年代別にみると、「ごみの不法投棄などの防止対策の強化」における「80歳以上(69.2%)」、「家庭や職場、学校等におけるごみの削減や再利用、省電力への取組の実践」における「80歳以上(30.8%)」などで高くなっています。



- 人口増加・定住促進の支援策では、「雇用の拡大」が44.6%で最も高く、次いで「子育て支援（41.9%）」、「買い物など日常生活の利便性向上（30.3%）」、「医療・福祉の充実（30.0%）」の順となっています。
- 年代別にみると、「子育て支援」における「20歳代（60.8%）」、「30歳代（59.3%）」、「雇用の拡大」における「50歳代（55.3%）」、「買い物など日常生活の利便性向上」における「10歳代（42.4%）」などで高くなっています。



※若者アンケートでも同じ質問をし、結果を比較しています。(P245 参照)

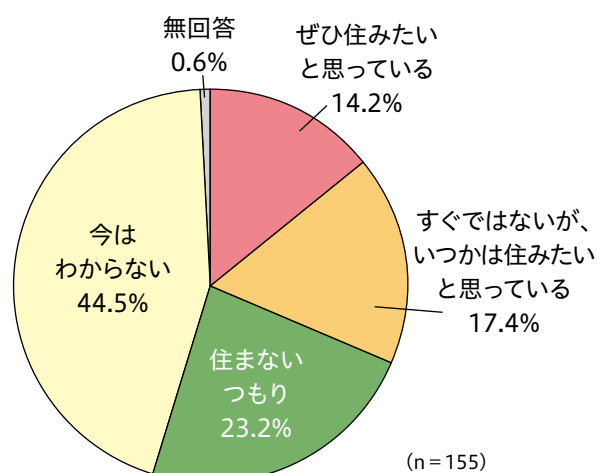
若者世代アンケート調査結果<ポイント>

調査対象	市内の平成17年(2005年)4月2日～平成20年(2008年)4月1日までの間に生まれた方の中から1,000名を無作為抽出
調査期間	令和5年(2023年)8月4日(金)～8月21日(月)
回収結果	配布数:1,000票、有効回収数:206票(郵送:163票、Web:43票)、有効回収率:20.6%

旭市への居住希望

若-5

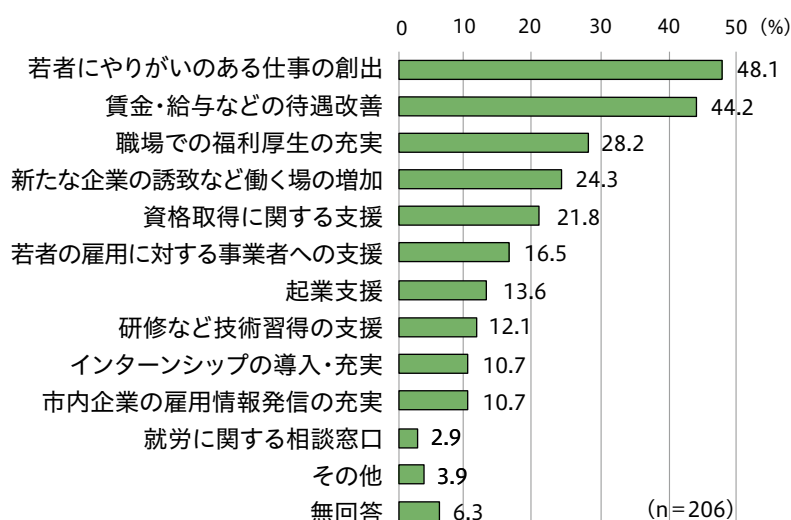
- 進学、卒業後の居住意向は、「今はわからない」が44.5%で最も高く、次いで「住まないつもり(23.2%)」、「すぐではないが、いつかは住みたいと思っている(17.4%)」、「ぜひ住みたいと思っている(14.2%)」の順となっています。
- 属性別にみると、「ぜひ住みたいと思っている」の割合は、「女性(18.8%)」が「男性(9.7%)」を上回っています。
- 年齢別では、「ぜひ住みたいと思っている」の割合は、「17歳(20.0%)」、「18歳(14.6%)」が高くなっています。
- 旭市に住みたい理由は、「生まれ育ったふるさとだから」が67.3%で最も高く、次いで「親や親戚等の近くで暮らしたい(一緒に暮らしたい)から(49.0%)」、「旭市が住みやすいまちだから(42.9%)」の順となっています。
- 旭市に住まない理由は、「旭市に希望する就職先がないから」が55.6%で最も高く、次いで「他の地域の方が、今よりも暮らすのに便利そうだから(買い物、娯楽など)(44.4%)」、「公共交通が不便だから(鉄道、バス)(36.1%)」の順となっています。



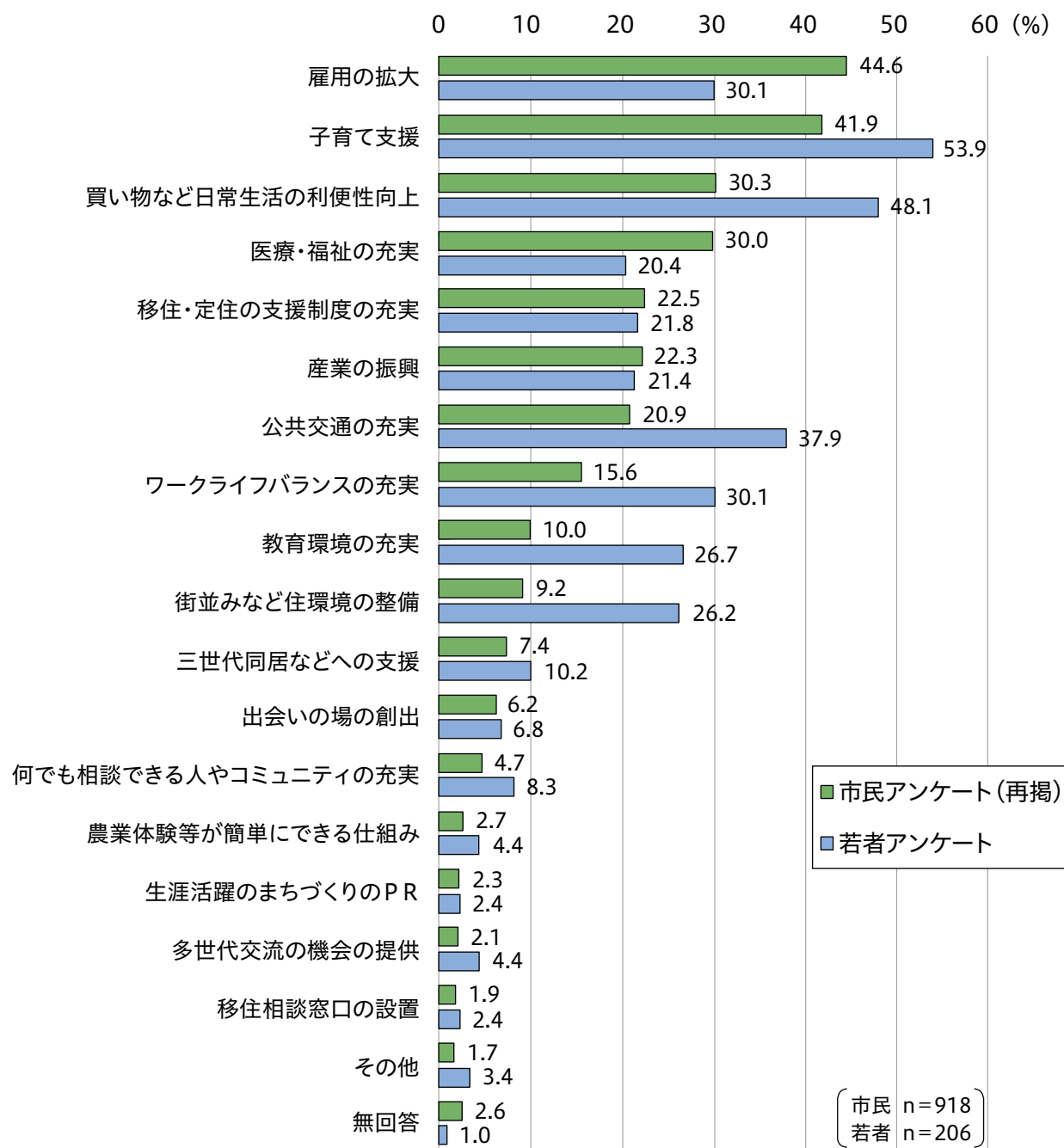
若い世代が旭市で働くために必要なもの

若-12

- 若い世代が旭市で働くために必要なことは、「若者にやりがいのある仕事の創出」が48.1%で最も高く、次いで「賃金・給与などの待遇改善(44.2%)」、「職場での福利厚生充実(28.2%)」の順となっています。
- 年代別にみると、「若者にやりがいのある仕事の創出」における「16歳(60.0%)」などが高くなっています。



- 人口増加・定住促進の支援策では、市民アンケートでは「雇用の拡大（44.6%）」、若者向けアンケートでは「子育て支援（53.9%）」が最も高くなっています。
- 若者アンケートは市民アンケートに比べ、「買い物など日常生活の利便性向上」、「公共交通の充実」、「街並みなど住環境の整備」、「教育環境の充実」、「ワークライフバランスの充実」などが高くなっています。



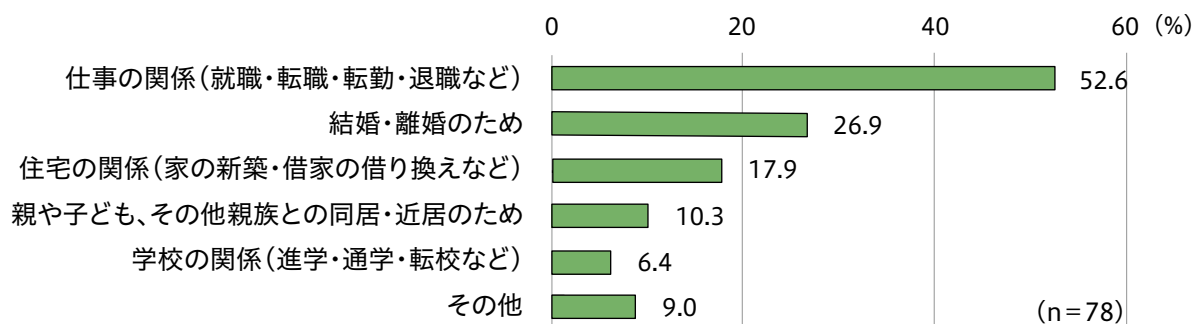
転出者アンケート調査結果<ポイント>

調査対象	令和4年中に旭市から転出された方の中から300名を無作為抽出
調査期間	令和5年(2023年)8月4日(金)～8月21日(月)
回収結果	配布数:300票、有効回収数:78票(郵送:42票、Web:36票)、 有効回収率:26.0%

旭市からの転出理由

転出-6

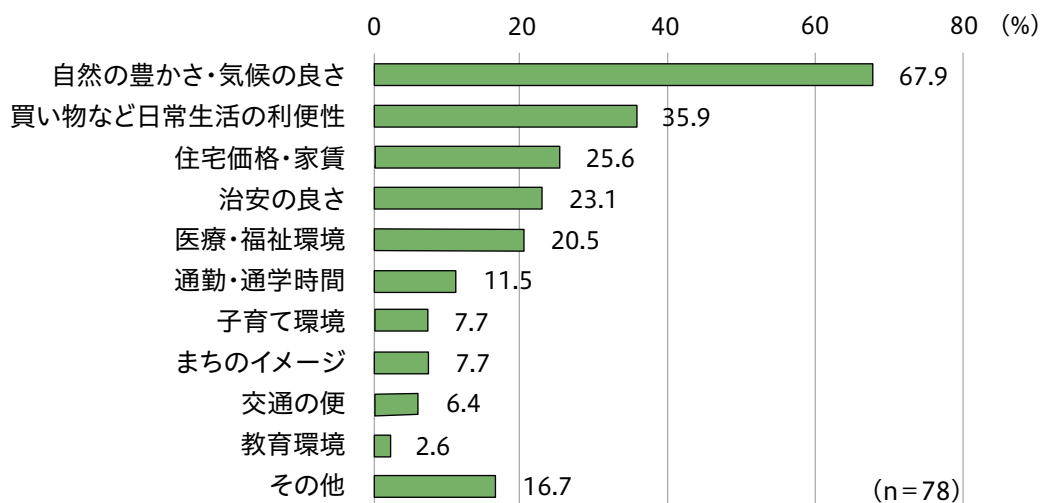
- 旭市から転出した理由は、「仕事の関係(就職・転職・転勤・退職など)」が52.6%と最も多く、次いで、「結婚・離婚のため」が26.9%、「住宅の関係」(家の新築・借家の借り換えなど)が17.9%などとなっています。
- 「その他」としては、「被災地から離れた市内で適当な価格の土地が見つからなかった」、「子どもの療育・教育環境」、「グループホーム入居」などとなっています。



旭市に住んで良かったところ

転出-8

- 旭市に住んで良かったところは、「自然の豊かさ・気候の良さ」が67.9%と目立って高く、次いで、「買い物など日常生活の利便性」が35.9%、「住宅価格・家賃」が25.6%、「治安の良さ」が23.1%、「医療・福祉環境」が20.5%などとなっています。
- 「その他」としては、「食べ物がおいしい」が多いほか、「様々な面での給付制度」、「両親が近くに住んでいる」、「コロナの支援が手厚かった」などとなっています。



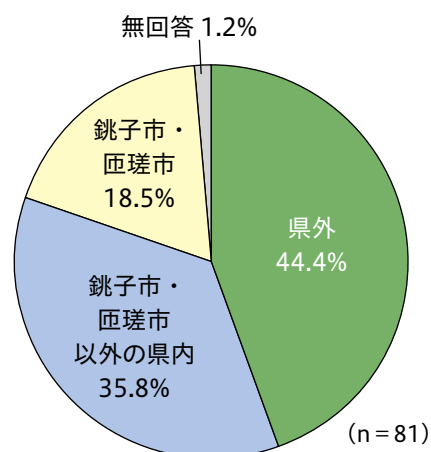
転入者アンケート調査結果＜ポイント＞

調査対象	令和4年中に旭市へ転入された方の中から300名を無作為抽出
調査期間	令和5年(2023年)8月4日(金)～8月21日(月)
回収結果	配布数:300票、有効回収数:81票(郵送:54票、Web:27票)、 有効回収率:27.0%

転入元

転入-5

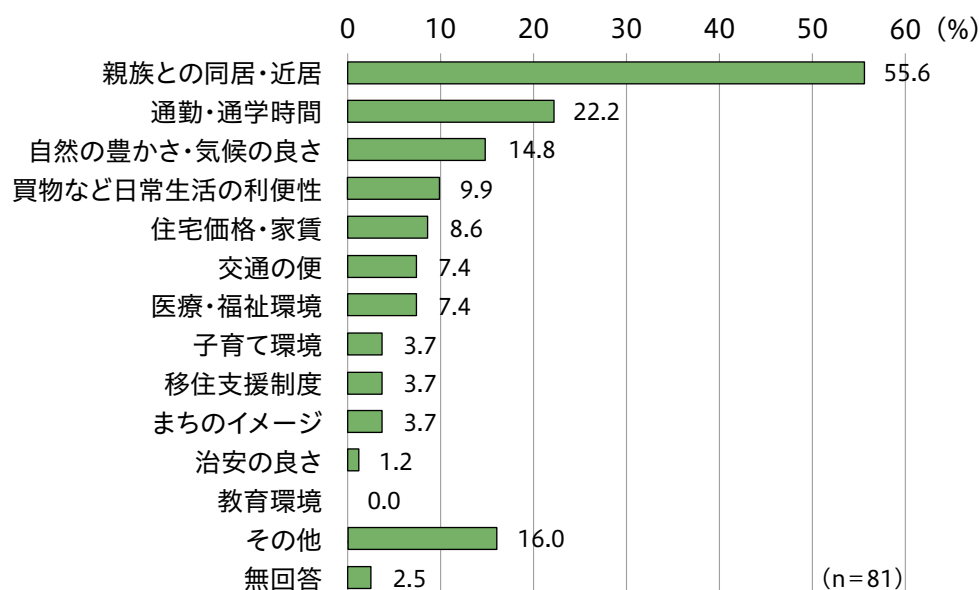
- 転入元の自治体・地域については、「県外」が44.4%で最も多く、次いで「銚子市・匝瑳市以外の県内」が35.8%、「銚子市・匝瑳市」が18.5%となっています。



転入先に旭市を選んだ理由

転入-8

- 転入先に旭市を選んだ理由は、「親族との同居・近居」が55.6%と目立って多く、次いで「通勤・通学時間」が22.2%、「自然の豊かさ・気候の良さ」が14.8%などとなっています。
- 「その他」としては、「会社の社宅や寮がある」、「実家がある」、「相続」などとなっています。



- 優先的に実施してほしいと思うことは、「観光・レジャー施設の整備」が33.3%で最も多く、これと「子育て支援の充実」(29.6%)、「道路の整備」(25.9%)、「商店街の活性化」(23.5%)の4項目が20%を超えています。
- 10%を超えた項目は、「魅力的な雇用の創出」(19.8%)、「健康づくりの推進」(17.3%)、「上下水道の安定供給(管の更新など)」(17.3%)、「旭中央病院の充実」(16.0%)、「排水施設の整備」(12.3%)、「不法投棄の監視体制の強化」(12.3%)などとなっています。
- 「その他」としては、「動物愛護やペットの飼育支援」、「雑草の除去」、「支援を受けられない家庭への補償の充実」、「東京や成田空港へのアクセス改善」などとなっています。

施策	件数	構成比(%)
観光・レジャー施設の整備	27	33.3
子育て支援の充実	24	29.6
道路の整備	21	25.9
商店街の活性化	19	23.5
魅力的な雇用の創出	16	19.8
健康づくりの推進	14	17.3
上水道の安定供給(管の更新など)	14	17.3
旭中央病院の充実	13	16.0
排水施設の整備	10	12.3
不法投棄の監視体制の強化	10	12.3
市民に分かりやすい情報提供	10	12.3
地域公共交通の充実	10	12.3
企業誘致の推進	9	11.1
医療・福祉の働き手確保	8	9.9
畜産環境の整備(臭気対策等)	7	8.6
起業・創業支援	7	8.6
公園の適正な管理	7	8.6
防災・防犯体制の充実	7	8.6
交流イベントの充実・観光客の誘致	6	7.4
学校教育の充実	6	7.4
介護予防の推進	6	7.4
移住定住の促進	5	6.2
シティーセールスの推進	5	6.2
ごみの減量化・資源化の推進	5	6.2
交通安全の強化	5	6.2
職員数の適正化・職員の能力向上	5	6.2
農業基盤の整備	4	4.9
農林水産業後継者の育成	4	4.9
障がい者の支援	4	4.9
保育所の再編	3	3.7
生涯学習の充実	3	3.7
公共サービスのデジタル化の推進	3	3.7
行政組織の効率的な運営	3	3.7
小・中学校の再編	2	2.5
バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進	2	2.5
ボランティア・NPOへの支援	1	1.2
商工業等後継者の育成	0	0.0
男女共同参画社会の促進	0	0.0
その他	15	18.5
無回答	4	4.9

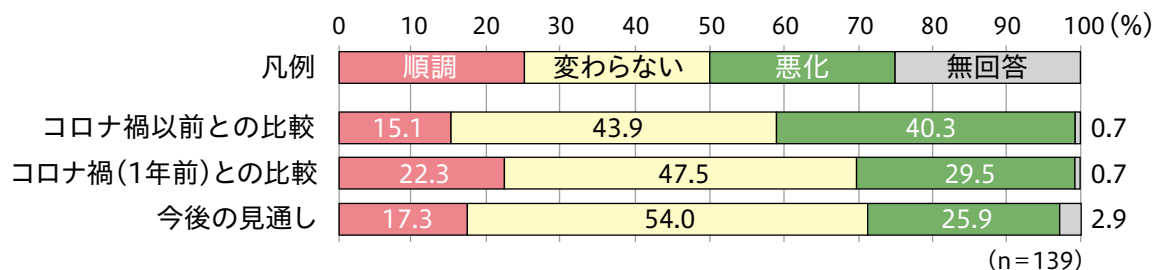
事業所アンケート調査結果＜ポイント＞

調査対象	旭市内に事業所(本社・支社・支店等)を置く法人の中から500社を無作為抽出
調査期間	令和5年(2023年)8月16日(水)～9月4日(月)
回収結果	配布数:500票(郵送)、有効回収数:139票、有効回収率:27.0%

経営動向(業況)

事-1

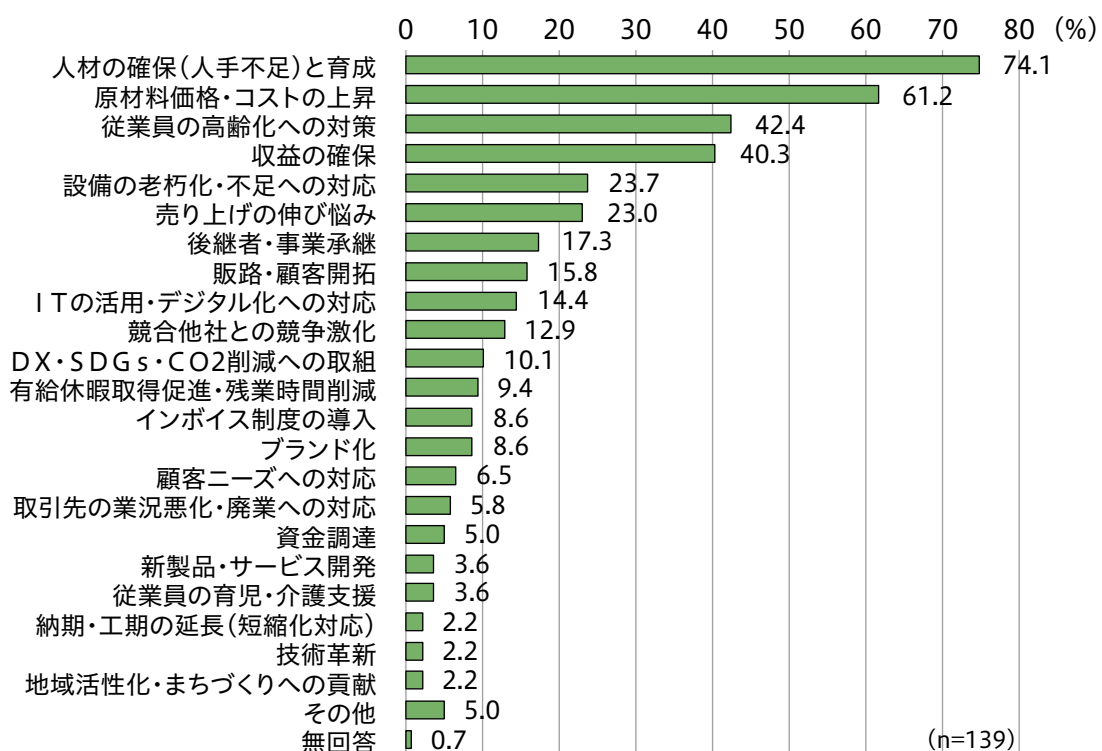
- 経営動向(業況)については、コロナ禍(1年前)との比較、コロナ禍以前との比較、今後の見通しとも、「変わらない」が最も高くなっています。
- 「悪化」と「順調」については、いずれも「悪化」が「順調」を上回っており、特にコロナ禍以前との比較では、「悪化」が40.3%と「順調」(15.1%)を25.2ポイント上回っています。今後の見通しは「順調」が17.3%、「悪化」が25.9%となっています。



経営課題

事-2

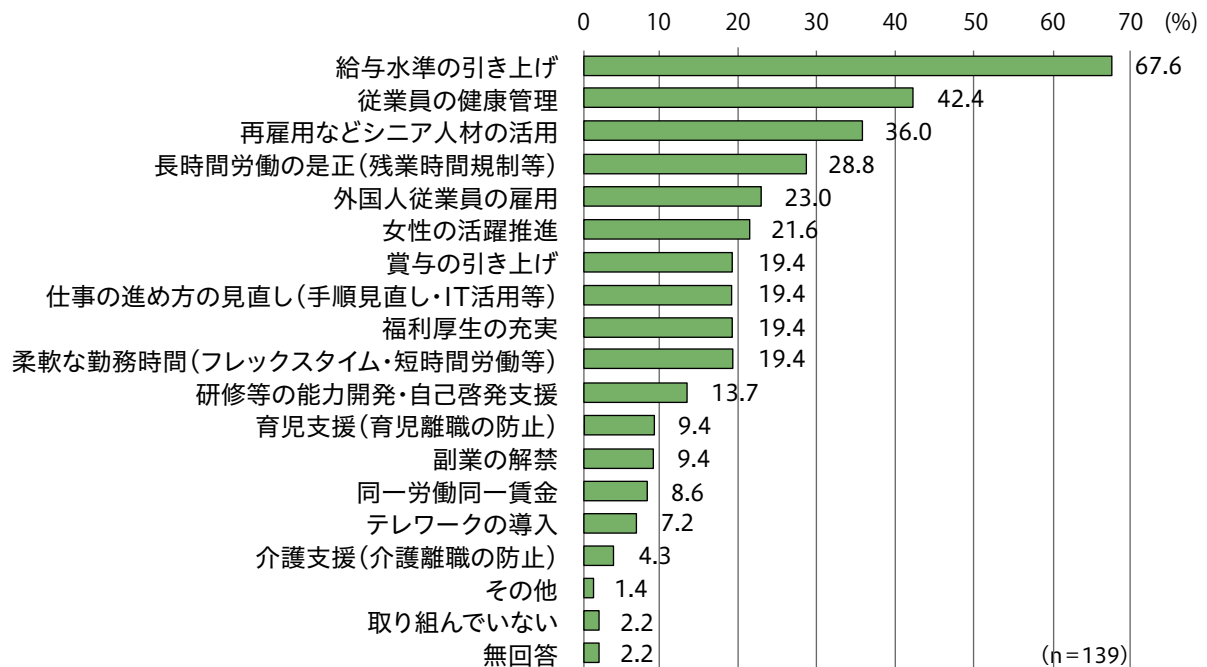
- 経営課題については、「人材の確保(人手不足)と育成」(74.1%)と「原材料価格・コストの上昇」(61.2%)の2項目が目立って高い。次いで、「従業員の高齢化への対策」(42.4%)、「収益の確保」(40.3%)となっています。
- その他では、「設備の老朽化・不足への対応」が23.7%、「売り上げの伸び悩み」が23.0%と続いています。なお、「地域活性化・まちづくりへの貢献」は2.2%に留まっています。



人材確保・雇用維持・働き方改革への取組状況

事-4

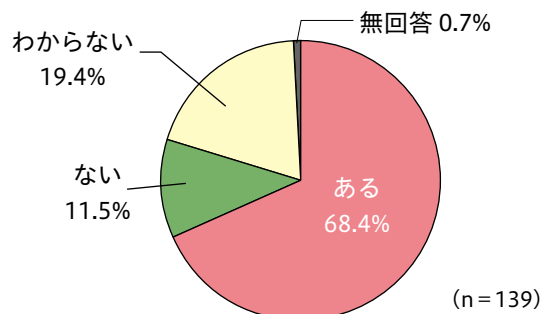
- 人材確保・雇用維持・働き方改革への取組状況は、「給与水準の引き上げ」が 67.6%で目立って高く、次いで「従業員の健康管理」が 42.4%、「再雇用などシニア人材の活用」が 36.0%、「長時間労働の是正（残業時間規制等）」が 28.8%などとなっています。



従業員の雇用を増やす可能性

事-6

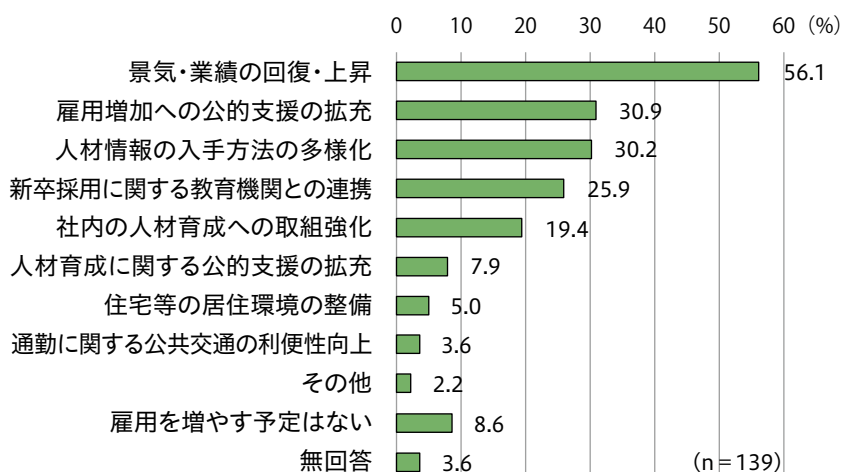
- 今後5年間程度で、従業員の雇用を増やす予定・可能性については、「ある」と答えた事業所が 68.4%とおおよそ7割を占めています。



雇用を増やすために必要なこと

事-7

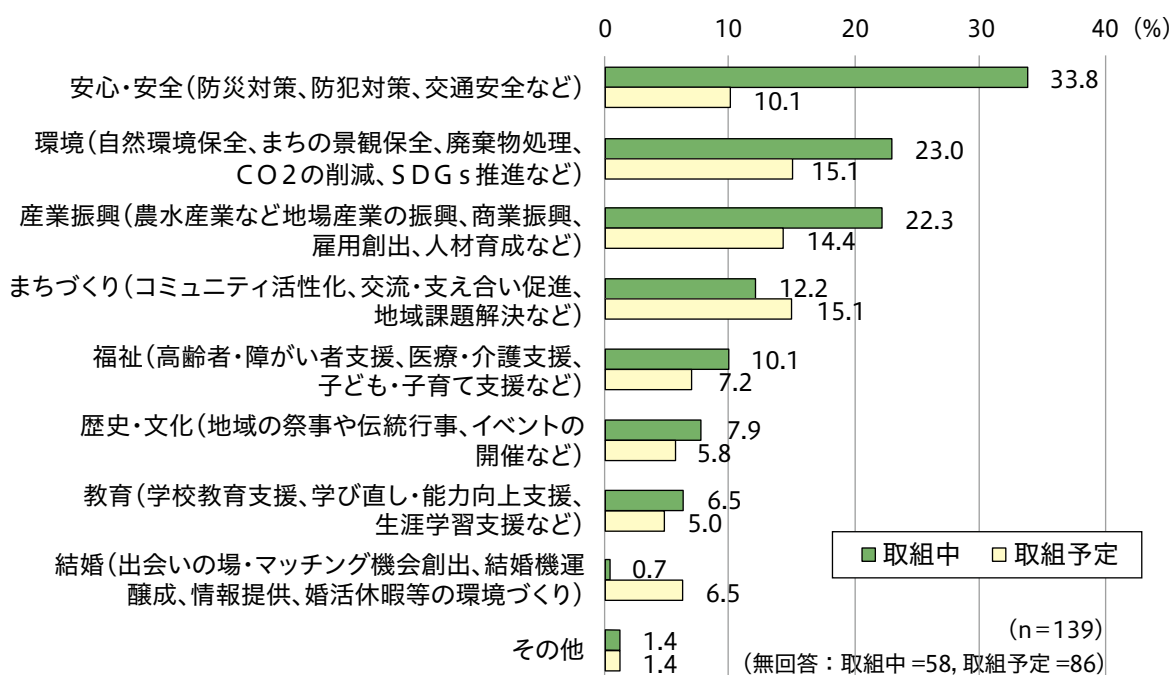
- 雇用を増やすために必要なことについては、「景気・業績の回復・上昇」が 56.1%と目立って多く、次いで「雇用増加への公的支援の拡充」が 30.9%、「人材情報の入手方法の多様化」が 30.2%、「新卒採用に関する教育機関との連携」が 25.9%など続き、「雇用を増やす予定はない」は 8.6%となっています。



地域課題解決への取組(現在取組中・今後取組予定)

事-10

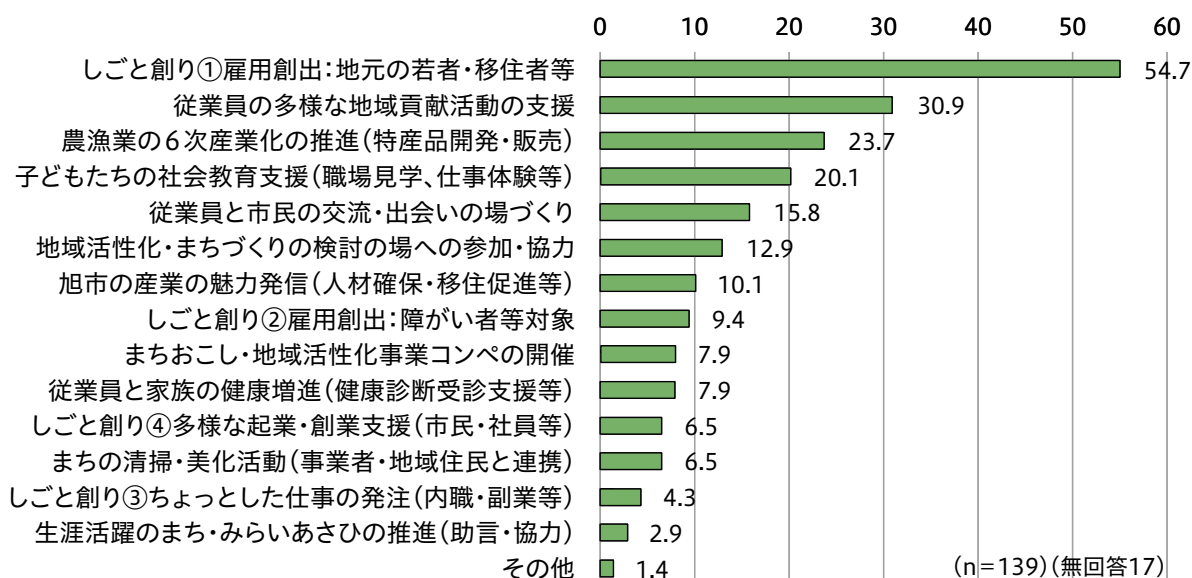
- 現在取り組んでいる地域課題は、「安心・安全（防災対策、防犯対策、交通安全など）」が33.8%と最も高く、次いで「環境（自然環境保全、まちの景観保全、廃棄物処理、CO2の削減、SDGs推進など）」が23.0%、「産業振興（農水産業など地場産業の振興、商業振興、雇用創出、人材育成など）」が22.3%などとなっています。
- 今後取り組む予定の地域課題は、「まちづくり（コミュニティ活性化、交流・支え合い促進、地域課題解決など）」と「環境（自然環境保全、まちの景観保全、廃棄物処理、CO2の削減、SDGs推進など）」がともに15.1%で最も高くなっています。



地域の活性化とまちづくりについて「重要・取り組むべき」こと

事-12

- 行政と連携した地域活性化やまちづくりで「重要・取り組むべき」ことは、「しごと創り①雇用創出：地元の若者・移住者等」が54.7%で目立って高く、次いで「従業員の多様な地域貢献活動の支援」が30.9%、「農漁業の6次産業化の推進強化（特産品開発・販売）」が23.7%、「子どもたちの社会教育支援（職場見学、仕事体験等）」が20.1%などとなっています。



「旭市のまちづくり」 市民意見交換会 開催結果

実施概要

開催目的	第3期旭市総合戦略の策定にあたり実施したアンケート結果を基に、市民のまちづくりに関する具体的な声を収集し、策定に向けた基礎資料とすることを目的として実施。			
	第1回	令和5年10月29日(日)	14時～16時	おひさまテラス「ミーティングルーム」 ※イオンタウン旭 2階
	第2回	11月26日(日)		
	第3回	12月17日(日)		
参加者	市内の高校生・4名、子育て世代・6名、シニア世代・6名、旭市新規採用職員・7名の計23名			
実施方法	会議は全3回とし、旭市の強みと弱み及び課題を踏まえた上で、「まちづくりの目標」(ビジョン)とその実現のために取り組むべきことをグループワーク形式で検討。 ※A班・B班・C班の3班に分けてグループワークを実施 (第1回:世代混合、第2回・3回:世代別)			
テーマ	第1回	●市民アンケート・若者アンケート結果の説明 ●旭市の強み・魅力と課題 ―好きな点・良い点・自慢したい点・嫌いな点・改善した方がよい点		
	第2回	●愛着と誇りを持ち、ずっと住み続けたいと思える「まちづくりの目標」(ビジョン)の検討 ―10年後に、旭市(市全体～地域コミュニティ)や旭市民(同世代～多世代・全体)がどのようなになってほしいか		
	第3回	●「まちづくりの目標」(ビジョン)を実現するために必要なこと・取り組むべきこと		

多様な視点で“思い”を伝えた参加者



グループワークの様子



高校生グループ



子育て世代グループ



シニア世代グループ



開催結果のポイント

- 実施結果のポイントとして、第1回の検討結果（旭市の強み・魅力と課題）、第2回の検討結果（愛着と誇りを持ち、ずっと住み続けたいと思える「まちづくりの目標」（ビジョン））、及び第3回の検討結果（「まちづくりの目標」（ビジョン）を実現するために必要なこと・取り組むべきこと）を以下に示します。

<第1回>

大きく10の分野について意見がありました。特に、良いところとして多く意見があがった分野は、自然についてで、自然が豊か（海内陸の2面性、広い田んぼなど）、また、自然に触れる機会が多い、四季の変化を視覚と手で感じられるといった意見がありました。次いで、医療・健康・福祉についてと、農水産業・食についての意見が多くありました。医療が充実していて、手厚い医療が受けられる、また、大きな病院（旭中央病院）があり、いざという時の安心感がある。さらに、農業・水産・畜産については、農業算出額が全国上位、おいしいものが多いといった意見がありました。

一方で、課題・問題点としては、交通・道路について、交通の便が悪い（移動に時間がかかる、市街地から離れると不便）、都市へのアクセスが悪い、時間がかかるといった意見がありました。また、子育て支援・学校教育関係については、小児科が少なく受診に困る。学校の校則が厳しいや、小中学校の再編により通学が遠くなることへの心配などがあげられています。

<第2回>

中心テーマ	班	10年後の旭市・旭市民・わたしたち(こうなってほしい・こうしたい…)	まちづくりの目標
◆交通 ●利便性・安全性の向上 ●交通網の充実 【17】 【】内:意見数(以降同様)	A	○市内の交通利便性がよくなり、今までにない旭の魅力を発見し、シェアできるまち。 ○バスや電車等の交通機関の利用がしやすくなっている(駅・バス停にアクセスしやすい、運行本数の増便)。 ○発電に有利で、電気代や公共の交通料金が安いまち。 ○移動がしやすく、市内を隅々まで楽しめる。 ○街灯を増やし、夜でも安心して外を歩くことができる。 ○狭い道路がなく、誰もが安心して歩ける広い道路がある。 ○高速道路の整備や電車の増便などにより、都心に快適にアクセスできる。 ○お年寄りから子どもまで、いつでも行きたいところに行ける交通網の充実したまち。	①市内の交通利便性・安全性が高まり、お年寄りから子どもまで、いつでも行きたいところに行くことができ、通勤・通学・通院・買い物・遊びなどの利便性が高まっている。 ②市内の移動が容易になることで、今までにない旭の魅力を発見し、みんなでシェアすることができ、そのことで旭をもっと大好きになっている。 ③高速道路ほか主要道路の整備・改良により、市内外、都心や成田空港との往来が容易になり、観光ほか人的交流が活発している。 ④高速道路ほか主要道路の整備・改良により、工業団地等へのアクセスが高まり、物流の効率化や企業立地が進展している。
	B	○市内のバス便の利便性が向上(運行本数がたくさん増加)し、車を使用しないで外出する人や機会が増えている。 ○どの道も夜間は明るく、安心安全でキレイな街へ。 ○人口増により特急の増便やベッドタウン化が進み、さらに人口増につながるような人が集まる街にする。	
	C	○旭市内の交通網の充実。 ○道路・鉄道等、交通の便が良くなり、他地区との交流が活発になっている。 ○運転免許を返納しても外出しやすい環境や制度を作る。 ○横芝から旭市まで高速道路が出来て、仕事や通勤に便利になる。 ○市内工業団地への大型車のアクセスの円滑化(干潟工業団地への入口の拡幅、銚子連絡道路の開通を見据えた分岐路線の整備…など)。 ○高齢者が増加するので、中央病院まで専用バスが運行するとよい。	

中心テーマ	班	10年後の旭市・旭市民・わたしたち(こうなってほしい・こうしたい…)	まちづくりの目標
◆子ども ●子育て支援 ●子どもの成長 ●教育 【15】	A	○子どもが将来に希望を持ち、自分の未来を具体的に考え、それに向かって成長できる教育がある。 ○子育てに関する情報共有や補助金の充実、公園・施設の増加など、子育てで支援が充実したまち。 ○子育てがしやすいように、子育てグッズなどの定期便があるまち。	⑤ 子どもたち(含:中高生)が、将来に夢と希望を持つことができる環境や教育、サポートがあり、その実現に向かって着実に歩み、成長している。 ⑥ 子どもたち(含:中高生)が、友だちと一緒に安心して遊べる場所や居場所がたくさんあり、仲間をつくりながら楽しく成長している。 ⑦ 子育てに関する支援(行政・企業等)が充実し、働き盛りの子育て世代が、安心して働きながら生活している。 ⑧ 子育てに関する支援(行政・企業等)が充実し、若者が結婚や出産・子育てに安心して前向きに取り組んでおり、移住・定住者が増加している。
	B	○子育てしながら仕事ができる環境(働く場、制度等)が充実している。 ○安心して出産や育児ができる。 ○子どもが自分らしく学校生活を送ることができている。 ○結婚や子育てに前向きに取り組むことができ、将来が明るい。 ○充実した支援により子育て世代の移住者が増えている。 ○働きざかりの世代が、子育てや介護の心配なく、安心して働ける街になってほしい。 ○空き家を活用した放課後の子どもの居場所づくり。	
	C	○子ども達が、安心して遊べる地域。 ○子どもや若者が遊べる場所を増やす。 ○子供達が公園等で友達と遊べるようになってほしい。 ○子供達が多く、元気に遊んでいる。 ○人口が10万人都市になり、子供が多くなっている。	
◆交流 ●多世代交流 ●つながり ●支えあい ●コミュニティ ●出会い 【14】	A	○地域の人たちで掃除を行ったり、お祭りなどを行っている。 ○お年寄り(一人暮らしでも)の不安や心配事をいつでもリモートなどで聞くことができる！ ○住んでいる人々がとても優しい地域で暮らしている。 ○高齢者が孤立しないよう、スポーツセンターや交流施設等が充実したまち。 ○コミュニティでのつながりを意識して、住民が経営するカフェなどを作る。 ○趣味を楽しみやすく、交流の場が多いまち。	⑨ 地域住民が主体的に地域の掃除や困りごとの解決、祭事・イベントなどに取り組み、コミュニティが活性化している。 ⑩ 子どもからお年寄りまで、多世代が交流する場と機会がたくさんあり、楽しい時間を過ごすとともに、支えあいやつながりの輪が広がっている。
	B	○習い事(幼児～小学生)や部活動(中高生)、サークル活動(大人)等の多世代が利用できる施設ができて活発な交流が展開されている。	
	C	○地区のお祭り等、世代間の交流ができるイベントを増やす。(復活させる) ○異世代間の交流が盛んで、高齢者が元気に暮らせるように。 ○地域のふれあい(高齢者&子ども他)。 ○空き校舎を利用して、老人・高校生・小学生・赤ちゃんが皆で楽しめる○○。 ○通いの場を増やす。 ○高齢者が出かけられる場所があり、車がなくても行ける。 ○出会いの場がある街。	
◆観光 ●多様な地域資源の活用 ●魅力づくり ●観光・集客スポットの開発 ●魅力発信 【15】	A	○SNS等でシェアしたいと思うような魅力があるまち。 ○流行を取り入れやすく、若者が訪れる機会の多いまち。 ○観光スポットや施設が増加・充実し、メディアの露出も増えている。 ○観光スポットが増えて観光客が多数来訪し、地域が活性化している。 ○神社が大切にされ、参拝者が多い。 ○宿泊施設が見つけやすく、数日間にわたって楽しめるまち。 ○江ノ電やたこせんといった地域の特色を活かした、思い出に残りやすいまち。 ○広大な土地を活かしたレジャー施設や誰もが楽しめるショッピングモールで買い物ができる。	⑪ 地域特性を生かした観光スポットや施設が増加し、SNSでのシェアやメディアの露出も増え、若者がたくさん訪れている。 ⑫ 飯岡漁港や刑部岬、九十九里海岸の特性と地元の食を生かした観光振興への取り組みで県内外からの多くの来訪者で賑わっている。 ⑬ 観光で訪れた多くの人が旭を気に入り、移住している。
	B	○統廃合による空き校舎・校庭を活用した観光施設ができて多くの来訪者で賑わっている。 ○海沿いのまちが賑わっている。 ○海岸線はカリフォルニアの様なビーチへ変貌し、漁港+キャンプ+遊覧船等で観光に特化し、移住者を増やす。 ○高速道路が開通し、アウトレットモール等の施設に他県市の人たちが多数訪れ賑わっている。	
	C	○飯岡漁港を活用して県内外から多くの観光客を呼び込む～①飯岡灯台と漁港を1つの公園として魅力出し(灯台・漁港間に大きなエスカレーター・ジップライン)、②地元野菜・魚・くだものを活用したファミリー向けレストラン。 ○景観を利用した観光業の活性化～①九十九里海岸線の砂浜利活用、②刑部崎灯台からの景観を利活用(景観眺望+αを要検討)、③飯岡漁港の利活用。(フィッシャーマンズワーフ、若い家族が楽しめるアトラクション、漁協と共同でイベント開催等) ○セブンアイランドの発想を再検討。	

中心テーマ	班	10年後の旭市・旭市民・わたしたち(こうなってほしい・こうしたい…)	まちづくりの目標
◆雇用 ●働く場の創出 ●企業誘致 ●若者の雇用 【10】	A	○旭市の基盤である農水業に加え、たくさんの企業が旭市に拠点を持ち、若者が旭市で働いて生活することができるまち。 ○マイナーな職業の就職先が多数集まり、話題性があるまち。 ○雇用支援が手厚く、若者が旭市に残っている。 ○高校・大学卒業後に多様な仕事に就くことができ1人1人が個性を出せるような10年後になってほしい。	⑭農水産業が活性化するとともにたくさんの企業が旭市に拠点を持ち、若者の魅力的な働く場と雇用が増加している。 ⑮多様な企業と働く場があり、多くの若者(高校・大学卒業者等)が地元に残り(戻り)、仕事や子育て、趣味やスポーツなど、多方面で活躍し、地域が活性化している。
	B	○雇用の幅が広い(Uターンしても職に悩まない)。 ○安定した雇用がある企業が多い。 ○多様な企業や職業があり、安定した生活のもとで安心して子育てができ、人口が増加している。	
	C	○工業団地での雇用の増加。 ○安定した収入を得られる職場がある街。 ○工業団地への大企業誘致により、若者の雇用の場と人材を確保し、活気あふれるまち。	
◆安心・安全・快適な暮らし ●医療の充実 ●高齢者福祉 ●買い物利便性 【9】	B	○災害が起きても”大丈夫”と安心できるまち。	⑯医療と福祉と市民の支えあいの心が充実し、高齢者や障がい者、その他支援を必要とする人が、孤立せず、楽しく、安心して暮らすことができる。
	C	○医療の充実した、安心な街。 ○医療が充実し、病気になっても高度医療が受けられ、安心して生活できる。 ○買い物に困らない街、移動販売など。 ○高齢者が一人暮らしでも安心して楽しく暮らせるまち。 ○留守にしても鍵をかけずに安心して外出ができる。 ○とにかく楽しく生活したい。 ○コロナがなくなり、安全に配慮された環境で、高齢者も安心して暮らせる住み良いまち。 ○税金のない(少ない)福祉が充実しているまち。	
◆農林水産業 ●安定した漁業環境 ●最先端農業・水産業 ●農・工連携 ●林業育成 【7】	A	○船舶等のライセンスを容易に取得でき、漁師さんの収入が安定する漁業環境をつくる。 ○畜産の数は減らさず、ニオイの問題を解決してほしい。	⑰農水産業が、最先端の技術・手法の研究と実践、観光産業との連携や6次産業化の推進、及び後継者の育成等により経営が安定し、担い手も増加し、活性化している。
	B	○農業特区で企業と学生が最先端農業を研究・実践し、関連企業も集まり、2次・3次産業が活性化。 ○銚子市と連携した水産特区で企業と学生が養殖等を研究・実践し、雇用の創出と人口増につなげている。	
	C	○農業を大事に育成する～①小規模農業のマッチング化推進、②JA本来の企業目的(農業共同体)への回帰、③農業後継者の育成に力を注ぐ(旭農業高校と東総工業高校の「農」+「工」職業校一体化による新時代チャレンジ力の向上)。 ○地域の農産物を活かし、買い物客が多く訪れ、経済が安定したまち。 ○林業の育成強化の推進(世界的な木材不足に対応すべくSDGsの観点も取入れ再起業化を促進)～①道路にはみ出した高木等の不要木材の強制伐採、②伐採した木材で再利用可能な製品を製造・販売(新規雇用創出)、③林業と雑草除去が事業として成り立つようにする…など	
◆移住・定住 ●旭市ならではの強み ●移住・定住の魅力づくり 【6】	A	○市外の人々が、1日、1週間、1年間、旭市での暮らしを体験でき、旭市に「住んでみたい・住み続けたい」と思ってもらいたい。	⑱「旭市でなら●●ができる!!」という強みが生まれ、旭市ならではの暮らし体験もでき、旭市に「住んでみたい、住み続けたい、一度離れてもいつか戻りたい」と思う人が増加している。
	B	○「旭市でなら●●ができる!!」という強みが生まれているとよし!(Uターンに加え新しい転入者の増加を目指す!) ○一度転出しても「いつか戻ろう」と思えるまち。 ○新築ではなく、空き家を活用するシステムづくり。 ○粗大ゴミの処分無料化。	
	C	○市営住宅を新しく。	
◆駅周辺 ●市内4駅周辺の開発・活性化 ●商店街の活性化 ●賑わい創出 【5】	A	○駅前の商店街が人だかりで賑わい、魅力を感じ、旭市に住みたい・住み続けたいと思う人がたくさんいる! ○飲食店等の落ち着ける場所(喫茶店)づくりなど駅周辺の発展。	⑲駅周辺の商店街が元氣になり、買い物の場、交流の場、個々人の居場所として、多世代の市民に親しまれ、賑わっている。
	C	○旭駅及び干潟駅の再開発推進～①旭駅北口の再開発(旭駅の南北円滑利用)、②干潟駅からの工業製品出荷ルート確保(駅構内の拡張及びあさひ鎌数工業団地・干潟工業団地との資機材運搬円滑化など) ○飯岡駅北側の再開発と倉橋駅周辺の利活用促進～①飯岡駅北側にロータリーを設置するとともに農免道路に向けて広域農道を整備する、②倉橋駅周辺への駐車場の整備と林業者の木材搬出用の貨物積み込みエリアの設置、及び倉橋・岩井・松ヶ谷谷地区、鐺木～桜井地区の林業促進地区指定と保護。 ○商店街をもっと元気に。	
			⑳市内JR4駅周辺について、各駅の立地環境を生かした開発・再開発により、駅の利便性が高まり、通勤通学に加え、商工業の面でも有効に利用されている。

中心テーマ	班	10年後の旭市・旭市民・わたしたち(こうなってほしい・こうしたい…)	まちづくりの目標
◆環境 ●自然景観 ●風力発電 ●CO2削減 【5】	A C	○星空や夜の町を楽しめるまち。 ○海のきれいさや公園の充実度はUPしてほしい。 ○公園の桜並木や季節感があるものは残っていてほしい。 ○風力発電エリア・ランドの発想(職域の拡大促進) ○安価な燃料、水で走る車がないかな～	②①美しい海と海岸線や四季折々の花木、きれいな星空など、旭ならではの自然を楽しむことができる、人や環境にやさしい旭ライフが持続している。
◆活躍 ●チャレンジ ●生涯活躍 【2】	B C	○市民が主体的にまちづくりに参加する(参加できる)街になってほしい(市民がチャレンジできる仕組みづくり／行政は市民のお手伝い)。 ○定年退職後も活躍できる街。	②②多世代の市民が、自分の“経験”や“得意”あるいは“地域や人の役に立ちたいという思い”を生かし、主体的にまちづくりに参加・チャレンジし、活躍をしている。
◆空地活用 【2】	C	○市の空地の土地について。 ○田畑の有効活用。	(上記目標達成に向けた取り組みで必要に応じて利活用する)
◆その他	B	○透明な市政	

<第3回>

中心テーマ	まちづくりの目標	班	まちづくりの目標を実現させるために必要なこと
◆交通	①市内の交通利便性・安全性が高まり、お年寄りから子どもまで、いつでも行きたいところに行くことができ、通勤・通学・通院・買い物・遊びなどの利便性が高まっている。	A	○キレイな街にするため、地域ごとでゴミ拾いの活動などに取り組む。 ○「GO」などのタクシーアプリを使い、ロボットタクシーなどの無人自動車で呼びたい時に呼び、行きたい所へ行けるようにする。 ○駅前だけでなく、様々な場所にタクシーの乗り場やバス停をつくる。
		B	○バス本数を増便し、路線を多くする。 ○市内バスの運行本数の増加、及び歩道や街灯等の道路環境の整備が必要。
	②市内の移動が容易になることで、今までにない旭の魅力を発見し、みんなでシェアすることができ、そのことで旭をもっと大好きになっている。	A	○「GO」などのタクシーアプリを使い、ロボットタクシーなどの無人自動車で呼びたい時に呼び、行きたい所へ行けるようにする。
		B	○市内の施設を利用した際や風景・食等、市民たちが自らSNSへ投稿したりしてたくさんアピールすることが必要。
	③高速道路ほか主要道路の整備・改良により、市内外、都心や成田空港との往来が容易になり、観光ほか人的交流が活発している。	A	○高速バス(東京行き)をより広めることによって、電車や高速道路での移動以外の選択も増える。
		C	○成田空港～R296～広域農道への道路を整備する。 ○信号でのスムーズな通過を可能にする。 ○アスファルト道路を本格的に改良。
	④高速道路ほか主要道路の整備・改良により、工業団地等へのアクセス性が高まり、物流の効率化や企業立地が進展している。	C	○成田及び東金有料道路から市内へのスムーズなアクセスを可能にする。 ○銚子連絡道の早期完成。 ○東関道から干潟地区へのバイパス道路推進計画の立案。
◆子ども	⑤子どもたち(含:中高生)が、将来に夢と希望を持つことができる環境や教育、サポートがあり、その実現に向かって着実に歩み、成長している。	A	○職業体験や色々なお仕事をされている方とふれあう機会を設ける。 ○学校で国語や数学を教えるのはもちろん、それ以上に社会での問題に前向きに取り組む、すべての子供たちが一切の不安もなく生活できる教育を行う。 ○中高生と大人が関わり合える機会を学校と連携して増やす。
		B	○学校跡地等を活用して、子供たちが遊んだり学んだりイベント施設等として活用。
		C	○学校教育以外の学びの施設や機会を作る。
	⑥子どもたち(含:中高生)が、友だちと一緒に安心して遊べる場所や居場所がたくさんあり、仲間をつくりながら楽しく成長している。	A	○空き家や空き地を子ども達が安心して遊べる場所にする。 ○放課後広場を作り、年関係なく遊び、触れ合えるようにする。
		B	○学校跡地等を活用して、子供たちが遊んだり学んだりイベント施設等として活用。
	⑦子育てに関する支援(行政・企業等)が充実し、働き盛りの子育て世代が、安心して働きながら生活している。	A	○こんな支援をやっているよ!ということをチラシ・ポスター・SNS等で市民、市外の人に知ってもらふ。子育てしやすい市だと周知してもらふと市外からも旭市に来てくれる。
		B	○行政・企業それぞれの現状把握と周知、連携体制の構築が必要。
		C	○子育て支援の充実(高校～大学への学費無償化、育児中(小学卒業まで)1人3万円の支給実現化、出産経費に係るものの全額補助)。
	⑧子育てに関する支援(行政・企業等)が充実し、若者が結婚や出産・子育てに安心して前向きに取り組んでおり、移住・定住者が増加している。	A	○こんな支援をやっているよ!ということをチラシ・ポスター・SNS等で市民、市外の人に知ってもらふ。子育てしやすい市だと周知してもらふと市外からも旭市に来てくれる。 ○出産・子育ての知識と財力のない若者に向け、必要な知識や費用等の情報を周知し、その時になって安心して取り組めるようにする。
		B	○雇用拡大→収入安定→子育て資金に明るい展望。 ○行政・企業それぞれの現状把握と周知、連携体制の構築が必要。
		C	○若者が結婚・出産を考えられる場の創出。 ○若者の出会いの場を設ける取り組みが大事(例:公的仲人制度によるカップル増加策)。 ○子育て支援の充実(高校～大学への学費無償化、育児中(小学卒業まで)1人3万円の支給実現化、出産経費に係るものの全額補助)。

中心テーマ	まちづくりの目標	班	まちづくりの目標を実現させるために必要なこと
◆交流	⑨地域住民が主体的に地域の掃除や困りごとの解決、祭事・イベントなどに取り組み、コミュニティが活性化している。	A	○キレイな街にするため、地域ごとでゴミ拾いの活動などに取り組む。
		B	○今までとは違った形でのコミュニティの形成が必要。同じ目的・考えの人達が気軽に集まって活動できるような仕組み作り。 ○中央病院があり医療が充実しているため、全世代・障がい者などが安心して生活できる。
		C	○地域住民の交流の頻度が増えると防犯意識も向上し、子育て世代や高齢者世帯の安心・安全な生活につながる。 ○移動スーパーの創設。
	⑩子どもからお年寄りまで、多世代が交流する場と機会がたくさんあり、楽しい時間を過ごすとともに、支えあいやつながりの輪が広がっている。	A	○定期的にこのような話し合いの場を設ける。 ○商店街の活性化により子どもから高齢者まで楽しく買い物ができる、交流することができる。
◆観光	⑪地域特性を生かした観光スポットや施設が増加し、SNSでのシェアやメディアの露出も増え、若者がたくさん訪れている。	C	○地域住民の交流の頻度が増えると防犯意識も向上し、子育て世代や高齢者世帯の安心・安全な生活につながる。 ○心豊かなつながりを持ち、穏やかな心を持って過ごしやすい。 ○人口増方策として「産めや育てや方策」、「お節介人の依頼」など。 ○保健師、介護士、保育士に協力を依頼し、住人を一人にしないこと。
		A	○商業(含:個人経営)・観光施設に対し、市が出資することで活性化。 ○InstagramやTikTok等、施設が宣伝を行い、来訪者を増やす。 ○地元食材を使ったカフェや旬のフルーツを使った直売所などを作って、生産者と消費者のつながりも大切にしていく。 ○市の飲食店(特にカフェ等)のまとめや口コミをSNS(インスタやX)を用いてアピールする。 ○個人の出店をしやすくする。(資格取得の支援等・土地の確保)。
		B	○廃校や空き地を活用し会社を呼び込む。 ○新たな観光スポットの発見や、魅力的な店舗の出店が必要。 ○市民が主体的に市の良いところを見つけ、情報発信していく。 ○新たな店舗の出店と小規模事業者の誘致。 ○地産地消イベントなどへの参加。 ○市内の施設を利用した際や風景・食等、市民たちが自らSNSへ投稿したりしてたくさんアピールすることが必要。 ○地域特性を活かし、今あるものを活用する(田舎、広い土地、空き校舎〜グランピング施設に!)
	⑫飯岡漁港や刑部岬、九十九里海岸の特性と地元の食を生かした観光振興への取り組みで県内外からの多くの来訪者で賑わっている。	C	○具体的な観光コースの設定と広報の徹底。 ○子育て世帯の移住を促進することも目標にする。 ○風力発電の景観を加えてPR(全国へ発信)。 ○飯岡港のフィッシャーマンズワークを県と共同で完成させる。 ○飯岡灯台を活用し、イルミネーション・花火・初日の出などが集まる時に若者等による音楽イベントを開催し、SNSやメディアに流す。 ○今ある観光スポットに滞在できる店を作る。
		B	○海岸線を整備して見栄え良くする。 ○映え&遊べるスポットを整備、拡充する。 ○漁港、灯台を利活用(キャンプ場等)する。 ○市内の施設を利用した際や風景・食等、市民たちが自らSNSへ投稿したりしてたくさんアピールすることが必要。
	⑬観光で訪れた多くの人が旭を気に入り、移住している。	C	○風力発電の景観を加えてPR(全国へ発信)。 ○飯岡港のフィッシャーマンズワークを県と共同で完成させる。 ○飯岡灯台を活用し、イルミネーション・花火・初日の出などが集まる時に若者等による音楽イベントを開催し、SNSやメディアに流す。 ○地産地消のレストランをつくる(元給食センターの人、料理の好きな人、人の好きな人と協力して)。 ○今ある観光スポットに滞在できる店を作る。
		B	○海岸線を整備して見栄え良くする。 ○映え&遊べるスポットを整備、拡充する。 ○漁港、灯台を利活用(キャンプ場等)する。
		C	○子育て世帯の移住を促進することも目標にする。 ○風力発電の景観を加えてPR(全国へ発信)。 ○飯岡港のフィッシャーマンズワークを県と共同で完成させる。

中心テーマ	まちづくりの目標	班	まちづくりの目標を実現させるために必要なこと
◆雇用	⑭農水産業が活性化するとともに、たくさんの企業が旭市に拠点を持ち、若者の魅力的な働く場と雇用が増加している。	A	○農水産業は安定した収入がないというイメージがあるので、良いイメージをもってもらう取り組みをし、収入が不安定な時期は給付金などの手助けをする。
		B	○農業・水産特区化して企業・大学(研究機関)を誘致し、効率的かつ生産性良く再編する。
	⑮多様な企業と働く場があり、多くの若者(高校・大学卒業者等)が地元に残り(戻り)、仕事や子育て、趣味やスポーツなど、多方面で活躍し、地域が活性化している。	C	○空き校舎を活用してキャンプやサーファーが宿泊できる施設を整備する。
◆安心・安全・快適な暮らし	⑯医療と福祉と市民の支えあいの心が充実し、高齢者や障がい者、その他支援を必要とする人が、孤立せず、楽しく、安心して暮らすことができる。	B	○中央病院があり医療が充実しているため、全世代・障がい者などが安心して生活できる。 ○高齢者(交通弱者)が集団で暮らせる施設をつくる。
		C	○元気な心を持って暮らす。 ○とにかく楽しく地域住民とつながっていること(⑩にもつながる)。 ○福祉の仕事関係者の一律給与補助(+5万円を市から)。
	⑰農水産業が、最先端の技術・手法の研究と実践、観光産業との連携や6次産業化の推進、及び後継者の育成等により経営が安定し、担い手も増加し、活性化している。	B	○農業・水産特区化して企業・大学(研究機関)を誘致し、効率的かつ生産性良く再編する。
◆農水産業	⑱「旭市でなら●●ができる!!」という強みが生まれ、旭市ならではの暮らし体験もでき、旭市に「住んでみたい、住み続けたい、一度離れてもいつか戻りたい」と思う人が増加している。	C	○林業を新規に第3セクター化し開発する。 ○農水産業の担い手を育成し活性化させる。
		B	○都内などから移住した人達が不自由なく最低限のコトがそろっている。
	⑲旭市でなら●●ができる!!という強みが生まれ、旭市ならではの暮らし体験もでき、旭市に「住んでみたい、住み続けたい、一度離れてもいつか戻りたい」と思う人が増加している。	C	○学校教育以外の学びの施設や機会を作る。 ○旭市で育った子どもに故郷意識を持ってもらい、定住につなげる。
◆移住・定住	⑲駅前周辺の商店街が元気になり、買い物、交流の場、個々人の居場所として、多世代の市民に親しまれ、賑わっている。	A	○個人の出店をしやすくする。(資格取得の支援等・土地の確保)。
		B	○現状はシャッター街なので、新しい店舗を増やすだけでなく、元々あるお店やお店特有の商品が復活しないと意味がない。 ○旭駅の周りは何もないので、駅利用者にとってうれしい環境を整える(例:お土産、コンビニ、コインロッカー、待機できる場所など)。
	⑳市内J R4駅周辺について、各駅の立地環境を生かした開発・再開発により、駅の利便性が高まり、通勤通学に加え、商工業の面でも有効に利用されている。	C	○南北バランスの良い周辺開発する事で活力上昇を目指す。
◆駅周辺	㉑美しい海と海岸線や四季折々の花木、きれいな星空など、旭ならではの自然を楽しむことができる、人や環境にやさしい旭ライフが持続している。	B	○現状はシャッター街なので、新しい店舗を増やすだけでなく、元々あるお店やお店特有の商品が復活しないと意味がない。 ○旭駅の周りは何もないので、駅利用者にとってうれしい環境を整える(例:お土産、コンビニ、コインロッカー、待機できる場所など)。 ○このような意見交換会の機会がほかにもあると良い。子どもの参加(「こども議員」のような取組)もあるとよい。 ○行政・企業とも市民の意見を聞く場を設けるとよい。
		C	○南北バランスの良い周辺開発する事で活力上昇を目指す。
	㉒美しい海と海岸線や四季折々の花木、きれいな星空など、旭ならではの自然を楽しむことができる、人や環境にやさしい旭ライフが持続している。	B	○「海」を一番に立てるのではなく、「周辺に施設があつての海!!」として進める方がよい。 ○サーフィンやご当地グルメを売りにする。
◆環境	㉓多世代の市民が、自分の“経験”や“得意”あるいは“地域や人の役に立ちたいという思い”を生かし、主体的にまちづくりに参加・チャレンジし、活躍をしている。	C	○旭市が取り組んでいる洋上風力を、環境面だけではなく観光資源にすることが大切。 ○星空を楽しめるスポット、施設を作る。
		B	○市の実情(良いことも悪いことも)をもっと公開し、市民の意識改革を進める。
	㉔多世代の市民が、自分の“経験”や“得意”あるいは“地域や人の役に立ちたいという思い”を生かし、主体的にまちづくりに参加・チャレンジし、活躍をしている。	B	○市の実情(良いことも悪いことも)をもっと公開し、市民の意識改革を進める。
◆活躍	㉕多世代の市民が、自分の“経験”や“得意”あるいは“地域や人の役に立ちたいという思い”を生かし、主体的にまちづくりに参加・チャレンジし、活躍をしている。	B	○市の実情(良いことも悪いことも)をもっと公開し、市民の意識改革を進める。
		B	○市の実情(良いことも悪いことも)をもっと公開し、市民の意識改革を進める。
	㉖多世代の市民が、自分の“経験”や“得意”あるいは“地域や人の役に立ちたいという思い”を生かし、主体的にまちづくりに参加・チャレンジし、活躍をしている。	B	○市の実情(良いことも悪いことも)をもっと公開し、市民の意識改革を進める。

「旭市のまちづくり」 事業者意見交換会 開催結果

実施概要

開催目的	第3期旭市総合戦略の策定にあたり実施したアンケート結果を基に、官民連携のまちづくりに関する事業者の具体的な声を収集し、策定に向けた基礎資料とすることを目的として実施。			
	第1回	令和5年12月21日(木)	18時半～20時	旭市役所 1階 市民ホール
	第2回	令和6年1月26日(金)		
参加者	アンケートで具体的な課題や要望、総合戦略への期待を回答していただいた企業、また、商工会の意向などを踏まえ20社を選定。			
実施方法	会議は全2回とし、旭市の課題解決及び官民連携のまちづくりに向けた取組方向、及びその実現のために取り組むべきことなどについて、グループワーク形式で検討。 ※A班・B班・C班の3班に分けてグループワークを実施			
テーマ	第1回	●事業者アンケート結果概要の説明 ●旭市の課題解決及び「官民連携のまちづくり」に向けた取組・方向性の検討・提案(グループワーク) ＜主に検討する3つのテーマ＞ ①雇用・働き方改革(人材確保、育成、福利厚生の実施など) ②商工業・農水産業の振興 ③移住・定住促進(地元の若者・移住者、U/Iターン者)		
	第2回	●「官民連携のまちづくり」に関する先進事例紹介 ●「官民連携のまちづくり」に関する具体的な提案(グループワーク) ＜主な検討事項＞ ○解決すべき(したい)地域課題 ○有効に活用できる地域資源 ○民間参画が可能な社会活動 ○官民連携で取組み可能な市の事業 ○官民連携の推進に向けて必要な役割分担		

業種を超えて話し合った参加者



グループワークの様子



開催結果のポイント

- 実施結果のポイントとして、第1回の検討結果（旭市の課題解決及び「官民連携のまちづくり」に向けた取組・方向性の検討・提案）、及び第2回の検討結果（「官民連携によるまちづくり」に関する具体的な提案）を以下に示す。

<第1回>

分野	班	意見（課題解決及び官民連携のまちづくりに向けた取組・方向性）
魅力（食・自然） 発信・ブランド化	A	・食べ物のブランド化。
		・福井県鯖江市のデザインによる伝え方で売上 20 倍に、見たくなるサイト作り（設計力）。
		・旭市には既に良い物がある。価値を感じてほしい。県外の人には感動してくれる。
		・都内に住んで旭市の食の美味しさに気づいた。
		・安心したものを食べさせたいと思う子育て世代に PR してほしい。
		・旭市は青いイメージ、空が広く、星が見える。
		・近隣に比べ飲食店が多いのは良い。
		・旭市は、食と人が魅力的である。
		・小学校の教育の中で旭市の魅力を伝えてほしい。
	B	・食べ物は高くても美味しかったら文句はない。（高い満足度）
		・海があるので、銚子市と組んで何かできたら良い。
		・旭市ライブカメラは高性能にして発信力向上。
農漁業振興 （仕事・観光資源）	C	・旭市の知名度が低い。ブランディングに取り組む。
		・都内の人が旭は食べ物美味しいと言っていた。ブランディングに力を入れるべき。
		・永住には農業という職業が良い。
観光・商業振興	A	・農業体験やアクティビティを観光資源に、都内の人には異次元な体験（農・漁）。
		・農業以外（水産業）の補助があれば。
		・サーファーにお金を落としてもらえるような仕組みに力を。
	B	・成田空港が近いが、外国人が来ない。
		・観光があれば、若い人も残る理由になる。良い宿など招致してくれたら良い。
		・常総市の道の駅は賑わっているが、旭の道の駅も魅力がある。
企業業績の改善・拡大	C	・観光面で、ペット同伴で宿泊できるホテルなどは、リピーター率が高い。
		・民間の大型施設、商店街などの衰退を市が関わっていけると良い。
		・イオンタウン周辺を中心としたまちづくりが、中心市街地まで波及してほしい。
仕事の間づくり・ 企業誘致・雇用確保	B	・収益が増えれば、福利厚生も充実し、好循環が生まれる。
		・家など安く借りれて仕事があれば、食には困らない。
		・若い人が流出しないための産業づくり。
	C	・大企業を誘致。
		・住んでいると分かりづらいが、資源は豊富である。今の産業を生かしつつ、新しいものを取り入れて。
		・IT 企業は開発合宿で地方へ行く。（誘致してみても、空き家、温泉もあるので、人と呼びこめる。）
外国人労働者の 受け入れ	B	・個々の事業者単独でなく、旭市全体で雇用確保に取り組むことが必要。
		・外国人の受け入れを市でやってもらえると良い。
		・外国人研修生の受け入れでアパートを1棟借りたり、購入したりしている。
働き方改革、子育て・ 福祉支援	C	・定住・移住者促進で、両親共働きの場合、子どもを見守れる場所や仕組みがほしい。
		・旭市は福祉が充実している。
		・介護現場は担い手が少ない。（ヘルパーの高齢化）
		・子ども食堂に食品を提供している。
公共交通の利便性 向上	B	・旭市は小児科が少ない。
		・旭駅に駅員が居ないため、年配の方が切符を買えない。
		・物流の働きが起爆剤、銚子連絡道の早期完成。
空き家・空き店舗の 有効活用	C	・公共交通機関が少ない。（車が無くても生活できれば移住者が増え高齢者の免許返納も増える。）
		・空き家の有効活用。
その他	A	・空き店舗は、住居と店舗が一緒になっている場合があるので、店舗のみ利用できる制度があると良い。
		・ふるさと納税の PR をもっと分かりやすく。
その他	C	・保健・医療面で、旭中央病院と綿密な連携をしたい。

<第2回>

分野(取組方向)	班	官民連携によるまちづくりに関する具体的な意見・提案
魅力創出・発信、 ブランド化	A	・長く安心して住める住宅の提供。安心して暮らせる家を、ポータルサイトで発信。
		・「旭はこんなに良い町」であることを子どもにアピール（大人になって思い出してもらえよう）。
		・市でバスツアーを実施するなど、市に住んでもらえるような仕組みづくりが必要。
		・ふるさと納税の返礼品に、旭市の商品をもっと取り入れてほしい。
		・旭の未来を考え、生産年齢人口の減少をどう覆すか。
		・遊休地を宅地にする取り組み、格安で住宅を提供。
		・市外に出た人が戻ってきてもいいなと思える施策がもっと必要。
		・他自治体との差別化を打ち出さないと人は来ない。
		・人口を増やす施策にお金を注ぐべき。
		・旭市は日本トップに入るものを有する、それを知る人がどれだけいるか。これらを数値化して把握するべき、市の事をもっと分かる必要がある。強みを把握するべき。
		・「旭に住むならこれを約束します」くらいの強いインパクトあるテーマを打ち出していく必要がある。
	B	・ロケツーリズムは、メディアを使い情報発信している。旭市は劣っているところは無い。
		・食べ物が全ておいしい。
		・新しい人を呼ぶ時に、環境が温かい。
		・情報発信は、専門家に依頼した方が良い。市でやれる事にも限界はある。
		・旭市の売りをもっと磨いてほしい。
		・道の駅をもっとアピールするべき、地元のスーパーになっている。
		・道の駅の発信力が足りない、官民連携で、食材と情報発信できる場が必要。
		・福井県鯖江市はデザインの専門家に依頼し、ふるさと納税が約20倍になった。
		・石川県千里浜は、民家の前に車で走れる砂浜がある。
		・旭市の海も努力が必要。ブルーフラッグビーチなどの国認証制度もある。
観光・商業・農業振興	A	・力のある旭市の生産者をどうアピールしていくか。
		・「二世対決」のポスターを作り話題性を呼んだ（意欲のある後継者7名での取組）。
		・定住したら農作物をプレゼントするとか。農業、畜産が強いので生かしてほしい。
	B	・建設関係の友人を、補助金の相談で、商工会へ繋いだことがある。市役所は敷居が高いので、間に入るような人（旭マイスター）がいると良い。
		・農業は資金を支援してもらえるが、事業所はそうでは無い。
		・産業が足りないと感じる。海があり、丘側に産業を呼び込めれば。
	C	・インバウンドへの取り組みが必要。
		・結婚して、旦那さんはフルで、奥さんはパートの場合は、農業にぜひ来てほしい。（茨城から働きに来る人もいる）
		・海までの交通手段を充実させたい。
		・市に任せきりにせず、企業もやっていかないと人は来ない。
仕事づくり・雇用確保	B	・地方公務員や銀行員も副業しても良いのでは。人手不足解消になる。
		・クラウドファンディングの仕組みで産業不足に取り組む。資金を集めて起業するまで、市で協力できる仕組み、失敗してもフォロー・チャレンジできる環境があると良い。
		・全国的な課題として、人材不足があり現場が厳しくなる。
	C	・様々な現場で人手不足があり、市全体で取り組めるものがある。
		・合同企業説明会を発展させてみては。
	C	・他市の取り組みで、主婦の仕事コンビニは良い。

分野(取組方向)	班	官民連携によるまちづくりに関する具体的な意見・提案
働き方改革、子育て・福祉支援	A	・食品のライフライン、断水した時に、病院や老人ホームに水を届けた。もっと他の企業と協力できると良い。
		・茨城県境町は、ふるさと納税額が59億円で、「干し芋」「子育て支援日本一」をアピールし、英語に力を入れている。ホノルルホームステイは無料で、すべての子どもたちが英語を話せる街を掲げている。
		・子どもたちのために、住んでもいいと思えるかどうか。
		・「子ども」は大きなテーマ、未来をつくる存在、思い切った取り組みをするべき。
	B	・今後の課題は、小中学校の統合。
		・東京から移住して感じたのは、女性が外に飲みに行ける環境があると良い。息抜きができるような（女性が月に1回飲食が無料になる取組→実施しているところもある）。
		・人口の取り合いより、出生数が増えた方が良い。
		・人口増やすために、手厚い養育が必要。
		・子どもの叱り方が難しい。学校の先生は大変そう。
		・福祉の現場では、旭市はフランクに対応できていて、自然と良い関係が築けている。
交流・繋がりづくりの促進 (イベント開催等)	A	・介護スタッフも高齢化により80歳を超える人もいる。
		・なりたい職業に介護士は入らない、よく思われていないため、イメージアップが必要。
		・友人とイベントを開催した。袋公園で飲食店やキッズダンス等を行った。
		・市の後援をもらってイベントを行うこともある。
		・移住促進のイベントに、もっと予算を使っても良いと思う。
		・成田市は小さいイベントを多くやっている。「見てみたい」と思えるイベントをもう少し増やすべき。
		・事業者のイベントを、市がサポートできる仕組み、周知など一元的に管理しPR。
		・イベントで、会社の関係者限定だったのを、一般の人も入れるようにした。
		・自分が小さい頃、町民文化祭や、体育祭、子ども会など年間を通して楽しいイベントが沢山あった。
		・子どもにとって、合併して広くなった分、旧干潟から市街地が遠い印象。地元のイベント感が無くなった。
		・子どもだけで楽しめるイベントが少ない。
		・重機が並んでいるのを見るだけで、子どもたちは目をキラキラさせている。イベントには感謝している。
	B	・大原幽学でのキャンパスや町がスキーに連れて行ってくれるなど、他校の友達もできて良い思い出になった。自分が親になり、子どもをそのようなイベントに送り出したい。
		・仲間がいるから故郷に戻りたいと思う人もいる。
		・海上キャンプ場が閑散としている。外で食べるから一層美味しい。専門的な人を置いて、企画やイベントをしてPR。
		・砂の彫刻イベントなども、徐々に疲弊して、イベントが続かなくなり、だいたい持ち出しをしている。
		・昔はキャンプ等があり、魚を取ったり楽しく交流もあった。(子どもの時の体験は大事)
移住・定住促進、人口減少対応	C	・主催が地元の人なら、縁があってイベントも続くと思う。(教育委員会が主体となって行える部分もある。)
		・ホタルが出るような場所でイベントを考えてみては。
	B	・カブト虫やクワガタを取れる人に場所を教えてもらう。(昆虫採集)
		・将来人口を48,000人としているが、目標は60,000人でも良いと思う。
		・なぜ人口が減少しているのか根本原因を考える必要がある。
		・旧海上中学校の跡地の利用。(分譲住宅など)
スポーツ・健康増進	C	・水道管が延伸されない地域がある。
		・水道管の老朽化がある。
	A	・東総運動場では、高校駅伝や、高校サッカーが行われ有名な選手も来ている。
		・スポーツの森や、野球場など、市の施設をどう生かしていく。
		・地域のスポーツ関係の取り組みを充実させることが必要。
その他	B	・体力作りは大事、心の面も成長できる。
		・体力づくりは仕事と結びついている。
	A	・企業として存続して、税などで市に貢献することを目標にしている。若者も家を持つことにネガティブ。
		・行政と民間との溝が無い。

＜全体のまとめ＞

“旭市のまちづくり”事業者意見交換会 官民連携のまちづくりの実現に向けて

第1回意見交換会の結果

経営課題	人材確保・育成 (含:学校教育)	市の魅力発信・地域資源の有効活用	原材料価格・人件費等コスト上昇	デジタル化・脱炭素・働き方改革
	従業員の 高齢化対策	人口減少・流出 (担い手不足・マーケット縮小)	各種助成・補助金等の支援	交通アクセス・利便性
官民連携 まちづくり 取組が考えられる分野	魅力(食・自然)発信・ブランド化	観光・商業・農業振興	企業業績の改善・拡大	空き家・空き店舗の有効活用
	仕事の場づくり・企業誘致・雇用確保	外国人労働者の受け入れ	働き方改革、子育て・福祉支援	公共交通の利便性向上

第2回意見交換会の結果

取組テーマ	主な意見・提案	取組方向・取組例
魅力創出・発信及びブランド化	○安心・安全な暮らしと住まいをPR。 ○ふるさと納税の返礼品に市の特産品を多数採用。 ○魅力の磨き上げとブランド化(他地域との差別化)。 ○魅力の強力な発信(SNS・メディア発信+バスツアー等のリアル発信、対象:都市住民+市民・特に子ども)。	●企業が自社のホームページ等で発信・PR ●特産品や商品・技術等を開発・提供、発信・PR ●特産品を贈答で活用
交流・繋がりの促進	○個別企業のイベント・催事を近隣住民にも開放(企業のPR+コミュニティの醸成、子育て支援・教育)。 ○企業のイベントを市が支援する仕組みがあるとよい。 ※昔は地域でイベント(文化祭・体育祭・子供会等)が多数あり、そこでの家族や友だちとの楽しい思い出が財産。	●自社のイベントを近隣住民等に開放(交流促進) ●近隣企業と連携・共催 ●市は情報発信や集客、各種調整等で協力
仕事づくり・雇用創出・働き方改革	○企業自らが自社のアピールと従業員募集に取り組む。 ○合同企業説明会の充実と市を挙げた取組(参加企業増加、多様な雇用ニーズの収集・発信)。 ○起業・創業及び副業・兼業の推進と支援。 ○子育てママのちょっとした仕事づくり(お仕事コンビニ)。	●自社の従業員募集サイト(自社のPR)の拡充 ●合同企業説明会参加 ●多様な働き方の実践(子育てママ支援他)
子育て・福祉の支援及び災害時対応	○子育て支援と教育面(英語教育日本一など)での特徴的な魅力創出・差別化。 ○女性・子育てママの「息抜き場の場・環境」の創出。 ○災害時における物資提供等の協力体制の確立(協力企業とできること等の情報共有)。	●自社で取組可能な子育て支援や子ども・学生への職業教育等の支援 ●災害時対応の協力体制への参画と情報共有
観光・商業・農業振興	○農畜産業の強みを移住者誘致に生かす(移住者への特典(農畜産物)供与など)。 ○「旭マイスター」(仮):移住・就業希望者と市・地域(自然・名所旧跡・住宅等)・企業等との橋渡し役が必要。 ○インバウンド誘致への取組。	●自社サイトでの魅力発信(市のサイトともリンク) ●取引先へのPR ●「旭マイスター」(仮)への登録(含:社員)

2 策定組織

(1) 旭市総合戦略推進委員会

◎旭市総合戦略推進委員会設置要綱

(設置)

第1条 旭市総合戦略の推進に当たり、広く関係者の意見を反映させるため、旭市総合戦略推進委員会(以下「推進委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 推進委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- (1) 総合戦略の策定及び見直しに関する事項
- (2) 総合戦略の効果の検証に関する事項
- (3) 定住自立圏構想に関する事項
- (4) その他総合戦略の推進に必要と認める事項

(組織)

第3条 推進委員会は、委員20人以内をもって組織する。

2 委員は、市の情勢に精通している者のうちから市長が委嘱する。

3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合における補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 推進委員会に、委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、推進委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 推進委員会の会議(以下「会議」という。)は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。ただし、委員委嘱後の最初の会議は、市長が招集する。

(庶務)

第6条 推進委員会の庶務は、企画政策課が行う。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、推進委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が推進委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、公示の日から施行する。

(旭市総合戦略懇談会設置要綱の廃止)

2 旭市総合戦略懇談会設置要綱(平成27年旭市告示第106号)は、廃止する。

(旭市総合戦略評価委員会設置要綱の廃止)

3 旭市総合戦略評価委員会設置要綱(平成28年旭市告示第169号)は、廃止する。

◎旭市総合戦略推進委員会委員名簿

No.	役職	氏名	備考
1	委員長	鎌 田 元 弘	学識経験者 (千葉工業大学教授)
2	副委員長	柳 明 美	市民代表 (旭市保健推進員会長)
3		鈴 木 正 雄	行政機関代表 (海匠地域振興事務所所長)
4		加 瀬 哲 郎	産業界代表 (旭市商工会青年部部長)
5		林 千 夏	市民代表 (旭市男女共同参画推進懇話会委員)
6		伊 藤 直 美	市民代表 (旭市子ども・子育て会議委員)
7		嶋 田 隆	金融機関代表 (千葉銀行旭支店支店長)
8		奈 良 暁 子	産業界代表 (地独)総合病院国保旭中央病院職員)
9		石 毛 良 樹	産業界代表 (JAちばみどり青年部委員長)
10		佐 藤 勝 彦	市民代表 (旭市消防団副団長)
11		梅 田 和 男	労働関係代表 (銚子公共職業安定所(ハローワーク銚子)所長)
12		宮 内 夏 子	産業界代表 (旭市介護認定審査会委員 東風荘松里館職員)
13		飯 田 周 作	産業界代表 (旭市雇用対策協議会 北総通運(株)社長)
14		嶋 田 明 範	産業界代表 (旭市飼料米生産者協議会会長)
15		加 瀬 修 一	市民代表 (旭市PTA連絡協議会顧問)
16		花 香 真 菜	市民代表 (旭市学校再編地域検討会議委員)
17		西 坂 重 信	市民代表 (デジタル分野)
18		水 野 竜 也	産業界代表 (観光物産協会 事務局長)

(2) 旭市行政改革推進委員会

◎旭市行政改革推進委員会設置要綱

(設置)

第1条 市の行政改革の推進に当たり、幅広い見地から意見を求めるため、旭市行政改革推進委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会の所掌事務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 行政改革アクションプランの策定に関し必要な事項を調査及び検討すること。
- (2) 行政改革アクションプランの推進について必要な提言等を行うこと。

(組織)

第3条 委員会は、委員15人以内で組織する。

- 2 委員は、市政について優れた見識を有する者その他市長が認める者のうちから市長が委嘱する。
- 3 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 委員が欠けた場合における補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に、委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会は、必要に応じて委員長が招集し、会議の議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、行政改革推進課において所掌する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成17年9月1日から施行する。

附 則(平成18年3月31日告示第67号)

この告示は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成22年3月30日告示第70号)

この告示は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成30年1月19日告示第8号)

この告示は、公示の日から施行する。ただし、第3条第3項の改正規定は、平成30年4月22日から施行する。

◎旭市行政改革推進委員会委員名簿

No.	役職	氏名	備考
1	委員長	高 根 雅 人	市政について優れた見識を有する者
2	副委員長	齋 藤 広 一	市民代表
3		石 毛 佐 和 子	市民代表
4		岩 井 義 正	市民代表
5		大 塚 成 男	市政について優れた見識を有する者
6		加 藤 信 行	市民代表
7		金 杉 光 信	市民代表
8		小 関 友 紀 子	市民代表
9		多 田 典 子	市民代表
10		浪 川 勝 子	市民代表
11		平 野 優	市民代表
12		宮 嶋 弘 美	市民代表

(3) 旭市国土強靱化地域計画検討委員会

◎旭市国土強靱化地域計画検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 旭市国土強靱化地域計画を策定するにあたり、旭市国土強靱化地域計画検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、旭市国土強靱化地域計画に関する事項について検討、提言等を行う。

(組織)

第3条 委員会は、16人以内の委員をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者 2人
- (2) 各種団体を代表する者 7人
- (3) 市民 4人(うち、2人は公募による。)
- (4) 関係行政機関の職員 3人

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から2年とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選によりこれを定める。
- 3 委員長は、会務を総括し、委員会を代表する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

- 2 会議は、委員の総数の半数以上の者が出席しなければ開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、企画政策課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、公示の日から施行する。

◎旭市国土強靱化地域計画検討委員会委員名簿

No.	役職	氏名	備考
1	委員長	飯 島 茂	旭市副市長
2	副委員長	船 倉 武 夫	千葉科学大学名誉教授
3		野 口 欣 一	旭市都市計画審議会会長
4		薄 田 勝 弘	ちばみどり農業協同組合 営農センター旭センター長
5		高 埜 正 人	(地独)総合病院国保旭中央病院 経営企画室長
6		海 上 敏 子	旭市赤十字奉仕団委員長
7		加 瀬 真 知 子	旭市民生委員児童委員連絡協議会 高齢者・障害者問題対策部会長
8		加 瀬 正 彦	旭市区長会会長
9		伊 東 幸 子	主任介護支援専門員
10		鈴 木 正 雄	千葉県海匠地域振興事務所所長
11		岩 井 克 彦	千葉県海匠土木事務所所長

3 今後の財政見通し

本市では、合併以降、国や県からの各種財政支援を活用し、健全な財政運営に努めてきました。

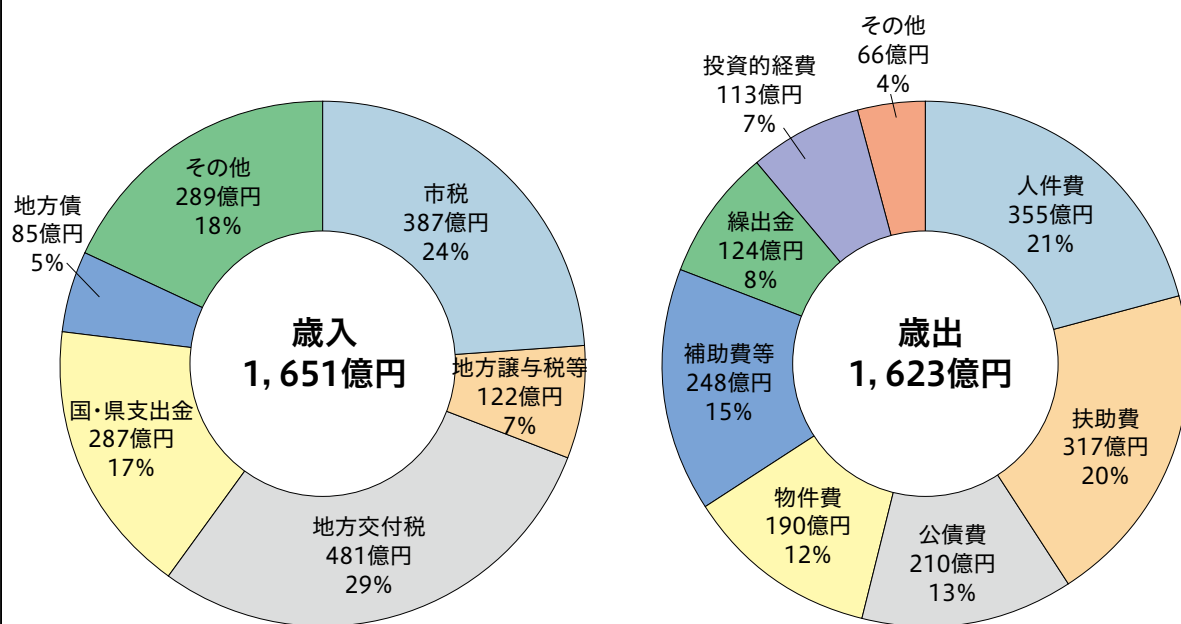
今後の財政見通しについて、歳入は、最低賃金の引上げなどの賃金上昇による所得の増加から、市税の増収が期待できるものの、物価上昇や世界情勢などが景気を下押しする可能性もあることから、決して楽観視できる状況ではありません。

一方、歳出面については、少子高齢化に伴う社会保障関係費の増加や老朽化が進むインフラ、公共施設等の維持更新にかかる支出の増加が避けられない中、エネルギー価格や労務単価の高騰、物価高などによる経常経費の上昇が想定されることから、以前にも増して財政負担が増えていくことが強く懸念されます。

そのため、今後とも持続可能な財政運営を行うためには、歳入については、財源確保に向けた一層の努力と限りある財源の徹底した有効活用に取り組み、歳出については、今以上に徹底した効率化、事務改善などによる支出の抑制に取り組む必要があります。

財政推計

総合戦略計画期間（令和7年度～令和11年度）の5か年の財政見通しについては、市独自推計の場合、歳入総額1,651億円、歳出総額1,623億円と見込んでいます。



※本推計は決算額をベースに推計しています。

■用語解説

	用語	解説
あ 行	空家等	建築物又はこれに附属する工作物であって居住その他の使用がなされていないことが常態であるもの及びその敷地（立木その他の土地に定着する物を含む）。ただし、国又は地方公共団体が所有し、又は管理するものを除く。
	アクションプラン	戦略や改革の具体的な施策を進めるための計画のこと。
	歩きたくなるまちチーム	適度なウォーキングは健康に良いとされている。歩きやすい環境を整備することによって、運動を始める、あるいは続けるきっかけになることを働きかける取組を行う。
	RPA (Robotic Process Automation)	人が行う定型的な作業を、人が実行するのと同じかたちで自動化するシステムのこと。これにより、効率向上やエラー削減が可能となり、業務効率が大幅に改善する。
	アンコンシャス・バイアス	無意識の偏見・思い込み。その人の過去の経験や知識、価値観、信念をベースに認知や判断を自動的にを行い、何気ない発言や行動として現れる。自分自身では意識しづらく、ゆがみや偏りがあるとは認識していない。
	EVバス	電気自動車（EV）の一種で、電気駆動するバスやタクシーを指す。EVバス・タクシーに移行することで、排出ガスによるCO2の削減や、騒音の低減効果などのメリットがある。
	ウェルビーイング (Well-being)	心身の健康に加え、感情として幸せを感じたり、社会的に良好な状態を維持していること。世界保健機関（WHO）憲章では、ウェルビーイングを「健康とは、単に疾病がない状態ということではなく、肉体的、精神的、そして社会的に、完全に満たされた状態にある」という趣旨で用いている。
	海業（うみぎょう）	海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用し、国内外からの多様なニーズに応えることで、水産物消費の拡大、地域のにぎわいや所得と雇用を生み出す事業のこと。
	AI-OCR	人口知能技術を活用した光学文字認識（OCR）システムで、PDFや画像に書かれている文字列を、デジタルなテキストデータに変換する技術のこと。これにより、業務の効率化やデータ入力の自動化が可能になる。
	AED (Automated External Defibrillator)	自動体外式除細動器のことで、突然心停止状態に陥ったとき、機器が自動的に判断し、必要に応じて心臓に電気ショックを与えて、正常な状態に戻す医療機器のこと。
	ALT (Assistant-Language Teacher) TA (Teaching-Assistant)	ALTは外国語を母国語とする外国人英語等教育補助員で、TAは日本人英語指導助手。ともに学級担任や英語担当教員と協力し、英会話の練習相手になったり発話を促したりするなど、さまざまな形でこどもたちの学習をサポートする。
	SNS (Social-Networking-Service)	インターネット上で他人とつながり、情報を共有するなど交流できる仕組み。X（旧Twitter）やFacebook、Instagramなどがある。
	SDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標)	「誰一人取り残さない（leave no one behind）」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられた。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されている。
	エリアビジョン	生涯活躍のまち・みらいあさひ周辺エリアの地域活性化を実現させるための指針で、コミュニティ参加と協働、経済・文化の振興、居住環境の向上、地域ブランディングの構築など、地域の将来の方向性や発展戦略を示したもの。

用語		解説
あ 行	LGWAN (Local Government Wide Area Network)	自治体間を相互につなげる行政専用の広域ネットワークで、自治体間の安全で効率的な情報共有を目的としており、行政サービスのデジタル化や業務効率化を支援している。 ※J-LIS（地方公共団体情報システム機構）が運営している。
	LGWAN-ASP (LGWAN-Application Service Provider)	地方公共団体向けに提供されるサービスプロバイダーのこと。行政専用の閉域ネットワークであるLGWANにおいて、安全かつ効率的に行政事務を支えるソフトウェアやサービスを提供し、自治体の業務効率化やコスト削減を支援する。
	LGWAN回線	地方公共団体間や地方公共団体と政府機関間の通信を行うためのインターネットから分離された行政専用ネットワーク。
か 行	カーボンニュートラル	二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること。2020年10月、政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言した。
	観光DX	デジタル技術を活用することで、観光という非日常体験の魅力や観光サービスの質をより高めるとともに、観光客の諸データに基づく観光地経営を行い、来訪者の利便性と観光産業の生産性の向上を図ること。
	教育DX	教育分野におけるDXを進めること。単なるデジタル化・ICT化ではなく、ITツールやICT機器、システム等の新しい技術を活用し、効率的・効果的な教育・指導の実施など、教育モデルや指導自体を改革すること。
	業務継続計画（BCP）	行政や公共機関等が、大規模災害などが起きた場合に業務の継続、早期回復を図るために平時に行う活動や災害時の対応方法などを事前に取り決めておく計画のこと。企業等が作成する事業継続計画と同様にBCP（Business Continuity Plan）と略される。
	業務継続マネジメント(BCM) Business Continuity Management	業務継続計画を策定し継続的に運用していく活動や管理の仕組みのこと。（１）事業の理解、（２）BCPサイクル運用方針の作成、（３）BCPの構築、（４）BCP文化の定着、（５）BCPの訓練、BCPサイクルの維持・更新、監査といった活動が含まれる。
	kg-CO ₂	CO ₂ 排水量で、ガソリン、ガス、電気などの使用量に係数をかけて算出するもの。
	区等	一定地域内の大多数の住民が参加して自主的に結成され、住民福祉の向上を目的として結成された区、自治会等これらに類似する組織のこと。
	グリーンインフラ	自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方。
	KPI（重要業績評価指標） (Key Performance Indicator)	各施策の進捗状況を客観的に検証するための定量的な指標のこと。
	交通DX	自動運転やMaaS、AIオンデマンド交通など、デジタル技術を活用した移動手段やサービス提供により、快適で利便性の高い地域交通と持続可能な地域社会を目指す、交通面におけるDXのこと。
	交通GX	EVバス・タクシー導入や太陽光パネル設置、蓄電池・充電設備の共同利用など、化石エネルギーからグリーンエネルギーの利活用に転換し、環境にやさしい公共交通と持続可能な地域社会を目指す、交通面におけるGXのこと。

用語		解説
か 行	コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度)	コミュニティ・スクールは学校運営協議会が設置された学校のこと。学校運営協議会制度は、保護者や地域住民、学校の先生などが集まり、地域の学校に通う地域のこどもたちがどのように育ってほしいか、そのために何ができるかを話し合い、知恵を出し合う合議制の組織で、本市では、令和6年度から市内全小・中学校が「コミュニティ・スクール」となっている。
さ 行	災害弱者	①自分の身に危険が差し迫った場合、それを察知する能力が無い、または困難な者 ②自分の身に危険が差し迫った場合、それを察知しても適切な行動を取る事ができない、または困難な者 ③危険を知らせる情報を受取る事ができない、または困難な者 ④危険を知らせる情報を受取る事ができても、それに対して適切な行動をとる事ができない、または困難な者のいずれかに該当する人のこと。
	災害派遣医療チーム (DMAT)	医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)から活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームのこと。
	3T(トリアージ:選別、トランスファ:搬送、トリートメント:治療)	Triage(選別)、Treatment(治療)、Transportation(搬送)の3要素からなる、災害時に怪我人など大量の医療需要が発生し、医療供給を上回っている状況下で医療行為をする際に重要となる原則のこと。
	CCDプロジェクト (Cities Changing Diabetes)	本市と千葉大学医学部附属病院、ノボ ノルディスク ファーマ株式会社が協定を締結し進めている糖尿病の発症予防と重症化予防のための活動及び共同研究のこと。2024年からCCDはCBH(Cities for Better Health ~まちが元気を創り出す~)に再構築されている。
	GX (グリーントランスフォーメーション)	石油等の化石燃料に頼らず、太陽光や水素などのクリーンエネルギーを活用して温室効果ガスの排出量を削減するとともに、そうした活動を経済成長の機会にするために世の中全体を変革していこうという取組のこと。
	シティセールス	「まちを売り込む」ことであり、都市としての魅力を地域内外へ効果的にアピールすることで、人・モノ・お金・情報を呼び込み、都市を活性化し持続的に発展させようとする方策のこと。
	シビックプライド	「地域への誇りと愛着」を表す言葉で、自分たちの住むまちをよりよく、より誇れるまちにしていこうという市民の“思い”を指している。地域の構成員であることを自覚し、地域課題を自分ごととして捉え、さらにまちをよくしていこうとする「意志」が含まれる。
	生涯活躍のまち	本市の宝であり診療圏人口90万人を誇る旭中央病院を核とし、同院から連携拠点である道の駅季楽里あさひを一体的にとらえて構想エリアとし、元気な高齢者を中心とする都市住民の誘致と若年世代の流出抑制と流入促進、及び仕事づくりを実現させ、本市全体の活性化につなげるための拠点としての「新しいまちづくり」を行うもの。
	数値目標	将来都市像の実現に向けて掲げる基本目標の達成度を客観的に評価するために設定する定量的な指標のこと。
	スポーツ実施率	20歳以上の週1回以上の運動・スポーツの実施率のこと。
	スマート農業	ロボット技術やICT(情報通信技術)、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)などの先端技術を活用し、超省力化や生産物の品質向上を可能にする新しい農業。

用語		解説
さ 行	3R	Reduce (リデュース)、Reuse (リユース)、Recycle (リサイクル) の頭文字を取った3つのアクションの総称。持続可能な未来のためには、「リデュース=ごみの発生や資源の消費自体を減らす」、「リユース=ごみにせず繰り返し使う」、「リサイクル=ごみにせず再資源化する」という3つの考え方へ意識を転換し、実践していくこと。
	生分解性マルチ	マルチとは作物を育てている畑の畝 ^{うね} を覆う被覆資材のこと。生分解性マルチは、土壌中にすき込むことで微生物によって分解されることから、農作物収穫後のマルチの回収作業や廃プラスチックの処分が不要であり、環境負荷の低減とともに作業の省力化、それによる生産規模の拡大が期待できる。
	性別役割分担意識	男女を問わず個人の能力などによって役割の分担を決めることが適当であるにもかかわらず、「男は仕事・女は家庭」「男性は主要な業務・女性は補助的な業務」などのように、男性、女性という性別を理由として、役割を固定的に分ける考え方のこと。
	仙台防災枠組2015-2030	2015年3月に仙台市で開催された第3回国連防災世界会議において採択された、現在の国際的な防災対策の指針。同枠組では、期待される成果と目標、指導原則、優先行動、関係者の役割や国際協力等を規定している。
た 行	多面的機能支払交付金事業	多面的機能支払交付金は、農業・農村の有する多面的機能を維持・発揮させるため、水路の清掃や除草など、地域の皆様が地域資源を適切に保全管理するために日頃行っている共同活動を支援するものです。交付金の使い道は地域で話し合い、活動参加者の日当や資材の購入費に充てるなど、それぞれの地域にあった取り組みに活用することができる。
	DEI (ディーイーアイ) (多様性・公平性・包摂性)	Diversity (ダイバーシティー)・Equity (エクイティー)・Inclusion (インクルージョン) の頭文字を取った言葉で、多様性などの実現に向けた取組のこと。
	DX (デジタルトランスフォーメーション)	デジタル技術を活用し、業務効率化やサービス改善を進めて住民の利便性向上を目指す取組のこと。
	DV	配偶者間・パートナー間の暴力をいい、身体的暴力に限らず、精神的、経済的、性的等あらゆる形の暴力のこと。
	TEC-FORCE (緊急災害対策派遣隊)	自然災害などが発生した時に、被災自治体にむけて技術的な支援を行う部隊のこと。
	特定空家等	そのまま放置すれば倒壊等著しく保安上危険となるおそれのある状態又は著しく衛生上有害となるおそれのある状態、適切な管理が行われていないことにより著しく景観を損なっている状態、その他周辺的生活環境の保全を図るために放置することが不適切である状態にあると認められる空家等のこと。
	都市計画区域	自然的・社会的条件、人口、産業、土地利用、交通量等の現況とその推移を考慮して、一体の都市として、総合的に整備、開発及び保全する必要がある区域として指定された区域のこと。
	都市計画マスタープラン	「市町村の都市計画に関する基本的な方針」として市が主体的に策定するもので、今後、市で行うさまざまな都市計画の指針となるもの。

用語		解説
な 行	南海トラフ地震	駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域としておおむね100～150 年間隔で繰り返し発生してきた大規模地震で、前回の南海トラフ地震（1944 年の昭和東南海地震及び1946年の昭和南海地震）が発生してから70年以上が経過した現在では、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まってきている。また、南海トラフ全域を対象として、異常な現象を観測した場合や地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価した場合等は「南海トラフ地震に関連する情報」の発表を行っている。
	2050年ゼロカーボンシティの表明	地球温暖化対策の推進に関する法律では、都道府県及び市町村は、その区域の自然的社会的条件に応じて、温室効果ガスの排出の削減等のための総合的かつ計画的な施策を策定し実施するよう努めるものとされている。こうした制度も踏まえつつ、自治体が脱炭素社会に向け、2050年までに二酸化炭素実質排出量ゼロ（CO2などの温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と、森林等の吸収源による除去量との間の均衡を達成すること）に取り組むことを表明すること。
	農業DX	スマート農業も含め、データ駆動型の農業経営を通じて消費者ニーズに的確に対応した価値を創造・提供していく、新たな農業への変革のこと。
は 行	Park-PFI	都市公園法の改正により新しく創設された公募設置管理制度のこと。 公園管理者が設置する都市公園内で飲食店、売店等の公園施設（公募対象公園施設）と広場や遊具等（特定公園施設）の設置・管理を行う民間事業者を公募により選定することで、都市公園の利便、魅力の向上を図るもの。
	8050問題	80代の親が50代のこどもの生活を支えるために経済的にも精神的にも強い負担を請け負うという社会問題のこと。
	パンデミック	感染症の世界的大流行のこと。
	避難行動要支援者	要配慮者のうち災害時に自ら避難することが困難で、円滑な避難のために特に支援を要する人。
	プライマリーバランス	社会保障や公共事業をはじめ様々な行政サービスを提供するための経費（政策的経費）を、税収等で賄えているかどうかを示す指標のこと。
	平均自立期間	日常生活を自立して暮らせる生存期間の平均のこと。
	ヘルシーナッジチーム	健康になるには、まずは家庭からということで、「知らないうちに健康になっている」を目標にした、誰もが気軽に取り組める健康メニューを日常に浸透させる取組を行う。
	防災行政無線（移動系）	車載型や携帯型の移動局と市役所との間で通信を行うもので、同報系が市役所 行政機関と住民との通信手段であるのに対して、移動系は主として行政機関内の通信手段。
	防災行政無線（同報系）	屋外拡声器や戸別受信機を介して、市役所から住民等に対して直接・同時に防災情報や行政情報を伝えるシステム。
	防災DX	デジタル技術を活用して災害対応の効率化と高度化を図る取組のこと。
	ぼるぼろ （事業名：日本一身近な海づくり 推進事業）	地域資源である海や海岸で遊びながら、自然を学び、守り、海を身近に感じながら暮らし続ける取組「Play（遊ぶ）、Learn（学ぶ）、Protect（守る） and Live（暮らす） with the Ocean（海）」にある5つのキーワードの頭文字「Plplo」から名付けられた。

用語		解説
ま 行	MaaS (Mobility as a Service)	地域住民や旅行者一人ひとりのトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるもののこと。
や 行	ヤングケアラー	家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められることもや若者のこと。子ども・若者育成支援推進法は、ヤングケアラーを国・地方公共団体等が各種支援に努めるべき対象としている。
	ユニサポチーム	職場、家庭などの集団（ユニット）へアプローチし、運動・食事の改善を働きかける取組を行う。
	ユニバーサルデザイン	障がいの有無や年齢・言語などに関わらず、すべての人に使いやすいようにつくられたもの。
	要配慮者	災害から身を守るための適切な防災行動をとることが特に困難な人。（高齢者、障がい者、乳幼児、妊産婦、傷病者、難病患者、日本語を十分理解できない外国人など）
ら 行	リエゾン (災害対策現地情報連絡員)	大規模災害の際に、被災自治体へ情報収集、連絡要員として職員を派遣すること。リエゾン（Liaison）は、仲介、橋渡し等という意味のフランス語。
	レジリエンス (Resilience)	ストレス「ひずみ・ゆがみをもたらす外圧」に対して折れず曲げられず跳ね返すパワーのこと。「しなやかさ」とも訳す。「脆弱性」は反意語。
	ローリングストック法	普段の食品を少し多めに買い置きしておき、賞味期限を考えて古いものから消費し、消費した分を買い足すことで、常に一定量の食品が家庭で備蓄されている状態を保つための方法のこと。
	ロケツーリズム	映画やドラマなどのロケ地を訪ね、風景や食を堪能し、その地域のファンになっていただくことで、地域の経済効果を上げるとともに、観光客や移住者を増やし、また、ロケを受け入れることによりシティブランドの向上やシビックプライドの醸成を図る取組のこと。

第3期 旭市総合戦略

みんなで創る未来 ず〜っと大好きなまち旭
～健康で心豊かな暮らし“ウェルビーイング”の向上～

発行日 令和7年3月

発 行 旭市

編 集 企画政策課

〒289-2595 千葉県旭市二の2132番地

TEL:0479-62-5307

旭市ホームページ

<https://www.city.asahi.lg.jp/>



